

中泉十王堂遺跡

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2016

高崎市教育委員会
群馬グランディハウス株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例 言

1. 本書は、宅地造成工事に伴う中泉十王堂遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市中泉町字十王堂 98 番 1 に所在している。
3. 本発掘調査および報告書の作成は、高崎市・群馬グランディハウス株式会社・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、開発原因者である群馬グランディハウス株式会社が負担している。
5. 発掘調査・報告書の作成は、矢島浩（高崎市教育委員会）の指導・監督のもと日沖剛史（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 発掘調査における平面・断面測量は亀田浩子（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
7. 発掘調査における航空写真撮影は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
8. 発掘調査・報告書の作成は、平成 28 年 1 月 5 日～平成 28 年 6 月 30 日の期間で実施した。
9. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「663」である。
10. 本書の執筆については I を矢島浩、それ以外を日沖剛史が担当した。
11. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
12. 発掘調査・報告書作成に携わった方々は以下の通りである。

【発掘調査】

岡庭秋男 永井述史 橋元裕児

【報告書作成】

池内麻美 磯 洋子 内田恵美子 亀田浩子 合田幸子 小谷貴世美 竹中美保子 田村健志
永島美和子 山下奈邦子 渡辺博子

13. 発掘調査から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。
(順不同・敬称略)
井上慎也 伊藤明宏 永井智教 中村岳彦 三宅敦気 カネコハウス有限会社

凡 例

1. 挿図中の北方位は座標北、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付してある。また、遺物写真は遺物実測図と同様の縮尺である。
3. 土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）を用いた。
4. 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版とも共通である。
5. 本書掲載の第 1 図は高崎市発行 1/2,500 『高崎市都市計画基本図』、第 2 図は国土地理院発行 1/25,000 『前橋』・『下室田』を一部改変引用した。
6. 本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の略号を用いる。
A s - A : 浅間 A 軽石（天明 3 年：1783 年） A s - B : 浅間 B 軽石（天仁元年：1108 年）
H r - F P : 榛名 - 二ッ岳伊香保テフラ（6 世紀中頃）
H r - F A : 榛名 - 二ッ岳渋川テフラ（6 世紀初頭） A s - C : 浅間 C 軽石（3 世紀末）
A s - S j : 浅間 - 総社軽石（11,000y, B, P）

目次

例言 凡例 目次

I 調査に至る経緯	1	5 井戸	9
II 地理的・歴史的環境	2	6 溝	10
III 調査の方法と経過	3	7 性格不明遺構	11
1 調査の方法	3	8 ピット	12
2 調査の経過概要	3	9 畠	12
IV 基本層序	4	10 遺構外出土遺物	12
V 遺構と遺物	4	VI まとめ	25
1 概要	4	写真図版	
2 竪穴住居跡	6	抄録	
3 竪穴状遺構	7	奥付	
4 土坑	8		

図版目次

第1図 調査区位置図	1	第9図 遺構実測図⑤	17
第2図 遺跡の位置	2	第10図 遺構実測図⑥	18
第3図 基本層序	4	第11図 遺構実測図⑦	19
第4図 中泉十王堂遺跡全体図	5	第12図 遺構実測図⑧	20
第5図 遺構実測図①	13	第13図 遺物実測図①	21
第6図 遺構実測図②	14	第14図 遺物実測図②	22
第7図 遺構実測図③	15	第15図 遺物実測図③	23
第8図 遺構実測図④	16		

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	3	第3表 出土遺物観察表②	25
第2表 出土遺物観察表①	24		

写真図版目次

P L. 1 中泉十王堂遺跡遠景 中泉十王堂遺跡全景	SI-05 遺物出土状況 SI-05 遺物出土状況 SI-05 遺物出土状況近景 SI-05 遺物出土状況	P L. 5 SK-07 全景 SK-08・09 全景 SK-10 全景 SE-01 全景 SD-01 全景 SD-01 工具痕確認状況 SD-03 全景 SD-03 工具痕確認状況	SD-07 全景 SD-08 全景 SX-01 全景 SX-02 全景
P L. 2 中泉十王堂遺跡全景 SI-01 全景 SI-01 遺物出土状況 SI-01 炉跡全景 SI-01 貯蔵穴全景 SI-02 全景 SI-02P01 全景 SI-03 全景	P L. 4 SI-05 全景 ST-01 全景 ST-02 全景 ST-03 全景 SK-02・P-01 全景 SK-03 全景 SK-04・05 全景 SK-06 全景	P L. 6 SD-02 全景 SD-04 全景 SD-05a 全景 SD-05b 全景	P L. 7 C 混晶検出状況 C 混晶検出状況 遺構確認状況 調査風景 出土遺物①
P L. 3 SI-04 全景			P L. 8 出土遺物② P L. 9 出土遺物③

I 調査に至る経緯 (第1図)

平成27年9月、土地所有者染谷ミエ子氏、染谷克人氏および工事主体者である群馬グランディハウス株式会社から、高崎市中泉町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課(以下、市教委と略)にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である群馬町奈良・平安No.46遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年9月15日には、市教委へ埋蔵文化財試掘(確認)調査依頼書が提出され、同年9月28日に試掘(確認)調査を実施した。その結果、古代と想定される遺構を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「中泉十王堂遺跡」とした。同年11月11日に文化財保護法に基づき届出が提出された。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成27年11月6日に群馬グランディハウス株式会社と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に群馬グランディハウス株式会社・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

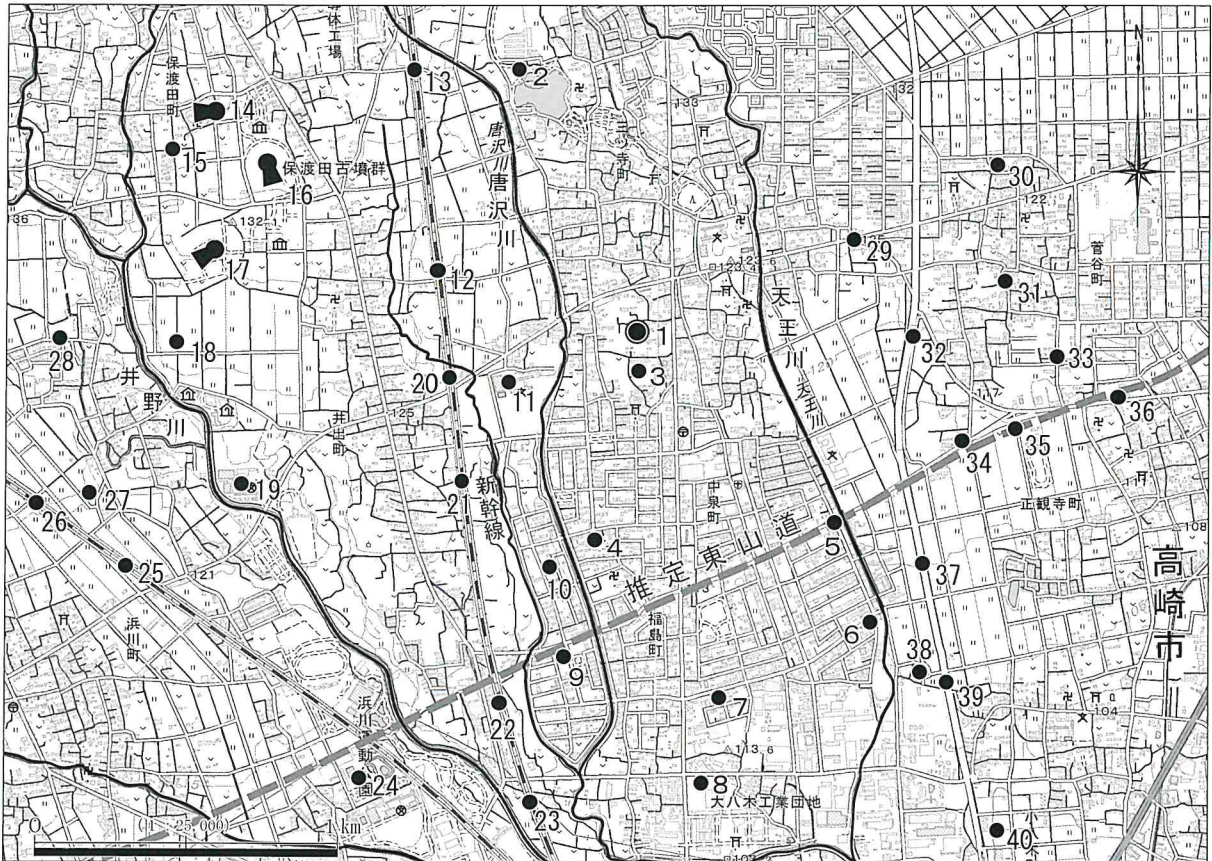


第1図 調査区位置図

II 地理的・歴史的環境 (第2図/第1表)

中泉十王堂遺跡は相馬ヶ原扇状地南東端に位置している。相馬ヶ原扇状地は13,000年前の陣場岩屑なだれにより形成されたもので、標高600m付近の榛名白川と午王頭川間にあたる榛東村上野原付近を扇頂とし、標高110m付近の井野川・午王頭川間を扇端とする。相馬ヶ原扇状地を流下する河川は、扇状地形の傾斜と同じく南東方向に走行し、本遺跡周辺を流れる天王川や唐沢川等は井野川へ合流する。これらの河川は、浸食作用により谷地形を形成しており、低地と台地が交互に連続する景観を作り出している。

本遺跡(1)は天王川と唐沢川に挟まれた台地上に立地しており、古くからの家並みが目立つ地域である。このため、新規開発に乏しく発掘調査事例は数少ない。また、本遺跡では古墳時代前期の集落が確認されているが、同台地上において当該期の遺構は井野川流域を除き確認されていない。近隣で挙げられるとすれば三ツ寺・七窓遺跡(3)・保渡田VII遺跡(15)と言えよう。一方、第2図の地形図からやや東に位置する元総社地域では古墳時代前期の集落造営および水田開発が顕著に認められており、地域開発の順序を垣間見れるような気もする。古墳時代中期後半から後期に至ると本遺跡周辺では遺跡数が増大し、保渡田古墳群(14・16・17)や首長層の居館跡とされる三ツ寺I(20)が著名遺跡として挙げられる。なお、この古墳群と居館跡は密接な関係を有するものとされている。古墳・居館跡の存在は周囲における生産基盤の安定化が確立しているとも言え、古墳時代中期後半から後期が当該地域における土地利用の確立期と捉えられよう。



1. 中泉十王堂遺跡 2. 堤上遺跡 3. 三ツ寺・七窓遺跡 4. 権現原遺跡 5. 福島飛地遺跡 6. 諸口古墳群 7. 大八木箱田池遺跡 8. 雨壺遺跡
9. 西浦南遺跡 10. 西浦北遺跡 11. 中林遺跡 12. 三ツ寺III遺跡 13. 三ツ寺II遺跡 14. 保渡田薬師塚古墳 15. 保渡田VII遺跡 16. 保渡田八幡塚古墳
17. 井出二子山古墳 18. 北畑遺跡 19. 同道遺跡 20. 三ツ寺I遺跡 21. 井出村東遺跡 22. 熊野堂I遺跡 23. 熊野堂II遺跡 24. 芦田貝戸遺跡
25. 浜川館遺跡 26. 浜川高田遺跡 27. 高田・館遺跡 28. 道場遺跡 29. 棟高東弥三郎街道遺跡 30. 菅谷万年貝戸遺跡 31. 菅谷・村東遺跡
32. 菅谷石塚遺跡 33. 菅谷地区遺跡群 34. 菅谷石塚II遺跡 35. 正観寺遺跡群 36. 高貝戸遺跡 37. 正観寺西原遺跡 38. オトウカ山古墳
39. 小八木志志貝戸遺跡 40. 小八木遺跡

第2図 遺跡の位置

No.	遺跡名	主な時期・性格	No.	遺跡名	主な時期・性格
1	中泉十王堂遺跡	古墳時代前期集落	21	井出村東遺跡	弥生後期・古墳中期集落
2	堤上遺跡	古墳後期～平安	22	熊野堂Ⅰ遺跡	弥生後期～平安集落
3	三ツ寺・七窓遺跡	古墳時代前期集落	23	熊野堂Ⅱ遺跡	弥生後期～古墳集落
4	権現原遺跡	縄文中期集落	24	芦田貝戸遺跡	古墳・平安水田
5	福島飛地遺跡	推定東山道（天王川渡河地点か）	25	浜川館遺跡	古墳水田、水田祭祀跡
6	諸口古墳群	中期～後期古墳（円墳3基）	26	浜川高田遺跡	古墳水田、水田祭祀跡
7	大八木箱田池遺跡	縄文中期集落	27	高田・館遺跡	平安水田、中世館
8	雨壺遺跡	弥生中期～後期集落	28	道場遺跡	H r - F A 泥流埋没古墳
9	西浦南遺跡	弥生後期集落・方形周溝墓	29	棟高東弥三郎街道遺跡	古墳～平安集落
10	西浦北遺跡	弥生後期集落	30	菅谷万年貝戸遺跡	平安集落
11	中林遺跡	古墳中期・平安集落、平安水田	31	菅谷・村東遺跡	平安集落
12	三ツ寺Ⅲ遺跡	古墳後期～平安集落	32	菅谷石塚遺跡	平安水田
13	三ツ寺Ⅱ遺跡	縄文前期・弥生後期～平安集落	33	菅谷地区遺跡群	縄文・古墳～中近世
14	保渡田薬師塚古墳	5c末前方後円墳	34	菅谷石塚Ⅱ遺跡	平安集落
15	保渡田Ⅶ遺跡	古墳前期集落、保渡田古墳群関連遺構群	35	正観寺遺跡群	弥生～平安集落
16	保渡田八幡塚古墳	5c末前方後円墳	36	高貝戸遺跡	推定東山道
17	井出二子山古墳	5c後半前方後円墳	37	正観寺西原遺跡	平安水田
18	北畑遺跡	古墳集落・畠・祭祀、古墳	38	オトウカ山古墳	後期～終末期古墳
19	同道遺跡	古墳・平安水田	39	小八木志志貝戸遺跡	縄文～平安集落、平安水田
20	三ツ寺Ⅰ遺跡	古墳時代中期居館、古墳後期～平安集落	40	小八木遺跡	奈良・平安集落

第1表 周辺遺跡一覧表

Ⅲ 調査の方法と経過

1 調査の方法

先に行われた試掘調査の結果から、表土は0.25バックホーを用いてⅢ層（黒ボク土）上面まで除去した。遺構確認はジョレンを用いて行い、重複遺構の新旧関係を捉えるように努めた。遺構の検出作業は、重複関係の新しいものから着手し、原則として土坑等の規模の小さい遺構は半截、住居跡等の規模が大きい遺構はベルトを設定して埋没状況の観察を行っている。なお、確認した井戸（SE-01）に関しては、掘込みが深く完掘に至るには危険が伴うものと判断し、掘削可能な深さまでの調査に止めた。

遺構の測量は、平面図をトータルステーション、断面図を手実測で行った。写真撮影は、35mm白黒ネガフィルム・35mmカラーリバーサルフィルムのほか1,000万画素相当のデジタルカメラを使用した。空撮はドローン（Phantom 2 Vision+）を使用して撮影した。

報告書作成作業は遺構・遺物トレース、写真加工、版組をAdobe IllustratorCS2・Adobe PhotoshopCS2・Adobe InDesignCS2を使用して行った。遺物の写真撮影は、センサーサイズAPS-Cのものを使用した（Nikon D7000）。

2 調査の経過概要

現地での発掘調査は平成28年1月5日～平成28年2月4日の間で実施した。

1月5～7日：基準点設置。発掘器材・簡易トイレの搬入。

1月8日：重機による表土除去を開始し、同日中に終了。

1月12日：発掘補助員動員。遺構確認作業に着手・終了後遺構検出作業に移行。

1月18日：積雪により現場中止。～21日。

1月19日：調査再開。

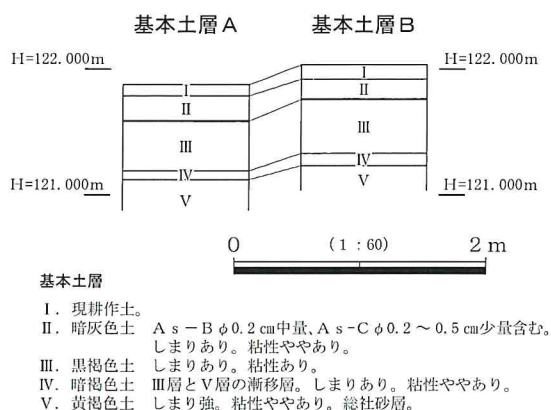
2月3日：遺構検出、平面・断面図の作成終了。高崎市教育委員会による現地調査終了確認。

2月4日：空撮。発掘器材・簡易トイレの撤収。現地調査終了。

IV 基本層序 (第3図)

本遺跡の調査では調査区の北端(基本土層B)および中央やや南寄り(基本土層A)で基本土層の観察を行っている。遺構確認面はⅢ層上面で、この確認面の傾斜は北から南へ向けて緩やかに低くなる。

Ⅱ層にはA s - Bが混入するほかA s - Cの混入も見られることから、本遺跡地にはA s - Cの一次堆積層およびA s - C混土が基本土層として存在していたものと推測され、これらの層はⅡ層により削平されたものと考えられる。なお、古墳時代前期の遺構埋没土は黒褐色のA s - C混土となっている。



第3図 基本層序

V 遺構と遺物

1 概要 (第4図/PL. 1・2)

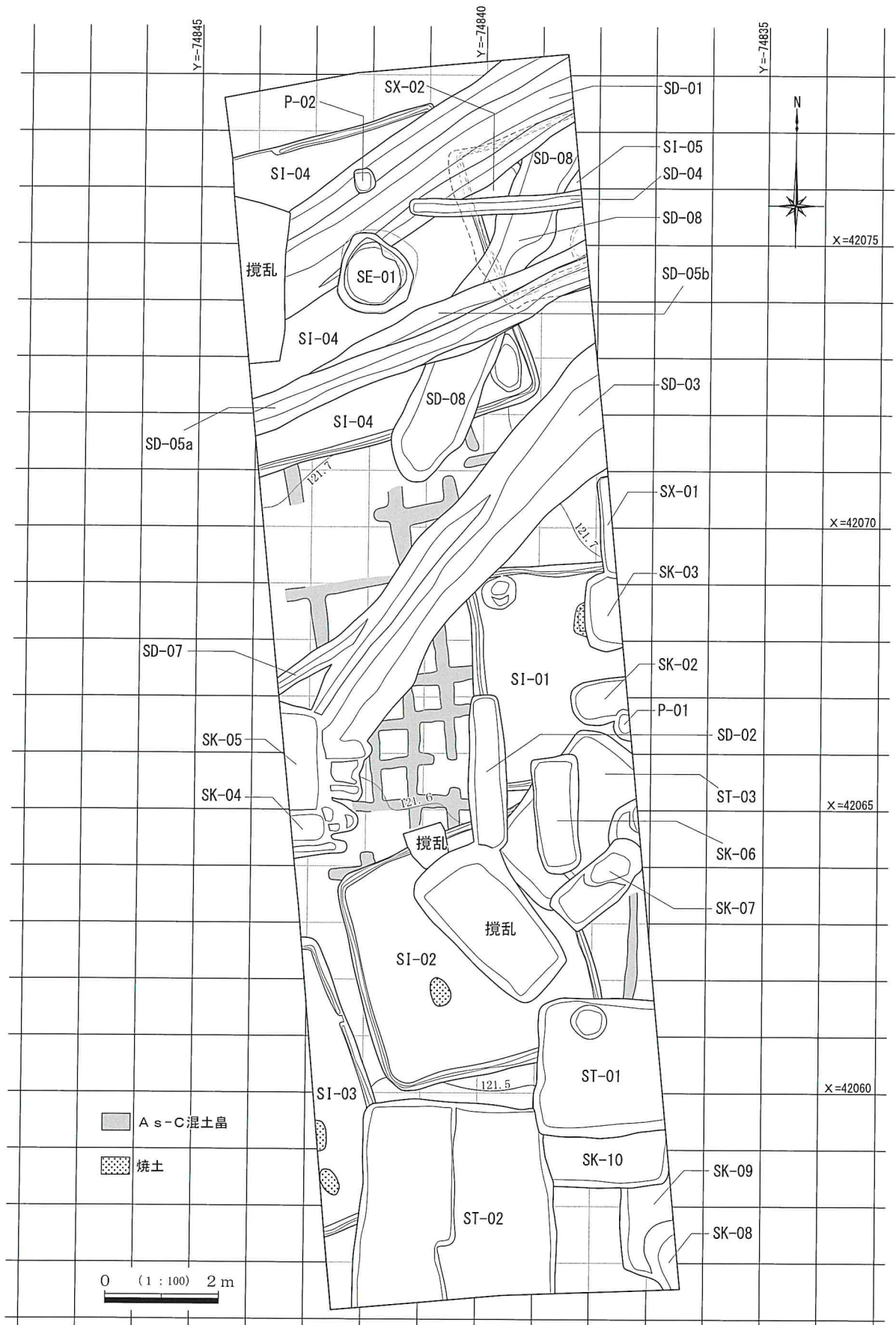
今回の調査では竪穴住居跡5軒(SI-01~05)・竪穴状遺構3基(ST-01~03)・土坑9基(SK-02~10)・井戸1基(SE-01)・溝8条(SD-01~04・05a・05b・07・08)・性格不明遺構2基(SX-01・02)・ピット2基(P-01・02)・畠跡が確認された。なお、SK-01は調査の結果、井戸と判断し遺構名をSE-01に振替え、SD-06に関しては現代の耕作痕であることが判明した段階で欠番としている。

確認された遺構は概ね古墳時代前期とH r - F A降下~A s - B降下間、A s - B降下以降の3時期に分類できる。

古墳時代前期の遺構は基本的に黒褐色のA s - C混土により埋没しており、SI-01~05および畠跡が当該期の遺構と言える。帰属時期に関しては竪穴住居跡は出土遺物より判断されるが、畠からは出土遺物が見られないため推測の域を出ない。しかしながら、混入するA s - C軽石が比較的シャープな状態で確認されたことから度重なる攪拌をあまり受けていないものと判断し、当該時期に帰属すると考えている。竪穴住居跡ではSI-05から多量の土器と蛇紋岩製の勾玉が出土している。これらの出土遺物は床面から浮いた状態で出土しており、埋没過程の段階で投棄ないし据え置かれた可能性を有する。

H r - F A降下~A s - B降下間と時期幅を持たせた遺構は、SD-01・03・05a・05b・7・8とSX-02で埋没土中に黄褐色の砂粒・A s - CのほかH r - F Aと想定される火山灰の混入が部分的に認められるものがある。埋没土のテフラ分析を行っていないため、立証までは困難であるが、当該期の遺構内に混入するテフラは出土遺物・層序的な関係からもH r - F Aの可能性が極めて高いものと思われる。また、これとともに埋没土中に混入する砂粒はH r - F AないしH r - F P降下時の泥流の可能性も指摘できよう。

A s - B降下以降の遺構はSK-02~10、SE-01、ST-01~03、SD-02・04、SX-01、P-01・02でA s - B混土で埋没している。特筆すべきは溝に関してで、H r - F A降下~A s - B降下間のもの北東-南西方向に走行するのに対し、当該期の溝は東西-南北方向に走行している。また、ST-03は人為的に埋め戻されている様相が明確に捉えられている。



第4図 中泉十王堂遺跡全体図

2 竪穴住居跡

SI-01 (遺構：第5図、P L. 2 / 遺物：第13図、第2表、P L. 7)

位置：X =42066 ~ 42070、Y =-74838 ~ -74841。主軸方位：N - 4° - W。重複：ST-03・SK-02・SK-03・SD-02・SD-03・SX-01・P-01 と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より古い。形状：残存部分から方形状を呈するものと想定される。規模：3.94 m × (2.67) m。残存深度：0.15 m。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、平坦である。炉跡：住居跡中央北寄りに設置されているものと想定される。楕円形状を呈するものと想定され、検出部分においては全体的に焼土化している。規模は平面0.63 m × (0.25) m、深さ0.05 mを測る。貯蔵穴：住居跡北西端に設置されており、As-C・総社砂層ブロックを含む黒褐色土により埋没している。規模は平面0.61 m × 0.57 m、深さ0.22 mを測る。柱穴：確認されなかった。壁周溝：残存部位に限り全周する。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-Cを含む黒褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中より土師器片が散在する状態で少量出土している。床面直上からの出土は見られない。時期：古墳時代前期と想定される。

SI-02 (遺構：第5図、P L. 2 / 遺物：第13図、第2表、P L. 7)

位置：X =42061 ~ 42066、Y =-74838 ~ -74843。主軸方位：N -16° - W。重複：ST-01・ST-03・SK-06・SK-07・SD-02 と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より古い。形状：方形状を呈する。規模：4.38 m × 4.12 m。残存深度：0.09 m。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、平坦である。炉跡：確認されなかったが、住居跡中央南東寄り床面より上位に焼土が確認されている。貯蔵穴：住居跡南東端でP01が確認されており、貯蔵穴の可能性を有する。As-C・総社砂層ブロックを含む黒褐色土により埋没している。規模は平面0.63 m × 0.61 m、深さ0.10 mを測る。柱穴：確認されなかった。壁周溝：残存部位に限り全周する。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-Cを含む黒褐色土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中より土師器片が散在する状態で少量出土している。床面直上からの出土は見られない。時期：古墳時代前期と想定される。

SI-03 (遺構：第5図、P L. 2 / 遺物：第13図、第2表、P L. 7)

位置：X =42058 ~ 42063、Y =-74842 ~ -74844。主軸方位：N -22° - W。重複：ST-02 と重複し、埋没土の観察から本遺構はST-02より古い。形状：方形状および長方形を呈するものと想定される。規模：(5.06) m × (1.14) m。残存深度：0.26 m。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、平坦である。炉跡：確認されなかったが、住居跡南東側で床面より上位に焼土が2か所確認されている。貯蔵穴：確認されなかった。柱穴：確認されなかった。壁周溝：東壁中央北寄りで一部途切れるが、残存部位に限りほぼ全周する。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-C・焼土を含む黒褐色土による自然埋没と想定される。焼失住居の可能性を有する。遺物出土状態：埋没土中より土師器片が散在する状態で少量出土している。床面直上からの出土は見られない。時期：古墳時代前期と想定される。

SI-04 (遺構：第6図、P L. 3 / 遺物：第13図、第2表、P L. 7)

位置：X =42071 ~ 42078、Y =-74840 ~ -74845。主軸方位：N -16° - W。重複：SI-05・SE-01・SD-01・SD-04・SD-05a・SD-05b・SD-08・SX-02・P-02 と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-05より新しく、その他の遺構より古い。形状：方形状および長方形を呈するものと想定される。規模：5.55 m × (5.13) m。残存深度：0.09 m。床面の状態：多少の凸凹が見られ、中央付近がやや高まる。炉跡：確認されなかった。

貯蔵穴：住居跡南東端でP01が確認されており、貯蔵穴の可能性を有する。As-Cを含む黒褐色土により埋没している。規模は平面0.91 m×0.55 m、深さ0.08 mを測る。柱穴：確認されなかった。壁周溝：残存部位に限り全周する。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-Cを含む黒褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中より土師器片が散在する状態で少量出土している。床面直上からの出土は見られない。時期：古墳時代前期と想定される。

SI-05（遺構：第6図、P.L. 3・4／遺物：第13・14・15図、第2表、P.L. 7・8・9）

位置：X=42074～42078、Y=-74839～-74841。主軸方位：N-23°-W。重複：SI-04・SD-01・SD-04・SD-05a・SD-05b・SD-08・SX-02と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より古い。形状：方形状および長方形を呈するものと想定される。規模：3.10 m×〈2.43〉m。残存深度：0.31 m。床面の状態：多少の凸凹が見られ、東へ向けてやや高まる。住居跡中央南壁付近に平面0.66 m×〈0.31〉m、深さ0.03 mの浅い窪みとなるP01が認められる。炉跡：確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。柱穴：確認されなかった。壁周溝：南西端で一部途切れるが、残存部位に限りほぼ全周する。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-C・総社砂層ブロック・焼土・炭化粒を含む黒褐色土による自然埋没と想定される。焼失住居と想定される。遺物出土状態：床面からやや浮いた状態で多量の土師器が出土しており、埋没過程において投棄ないし据え置きされたものと想定される。時期：古墳時代前期と想定される。

3 竪穴状遺構

ST-01（遺構：第7図、P.L. 4）

位置：X=42060～42062、Y=-74837～-74839。主軸方位：N-2°-W。重複：SI-02・ST-02・SK-09・SK-10と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：残存部分から方形状ないし長方形を呈するものと想定される。規模：2.46 m×〈2.30〉m。残存深度：0.26 m。底面の状態：多少の凸凹が見られるが、平坦である。柱穴：確認されなかった。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-B・As-C・黒ボク土・炭化粒を含む暗灰色土ないし黒褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：As-B降下以降と想定される。

ST-02（遺構：第7図、P.L. 4）

位置：X=42057～42060、Y=-74839～-74843。主軸方位：N-0°。重複：SI-03・ST-01・SK-10と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-03・SK-10より新しく、ST-01より古い。形状：残存部分から長方形を呈するものと想定される。規模：〈3.56〉m×3.56 m。残存深度：0.13 m。底面の状態：多少の凸凹が見られ、西側半分が東側半分に比べ3～5 cm低い。柱穴：確認されなかった。貼床：確認されなかった。遺構埋没状態：As-B・As-C・黒ボク土を含む暗灰色土ないし黒褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：As-B降下以降と想定される。

ST-03（遺構：第7図、P.L. 4）

位置：X=42064～42067、Y=-74838～-74840。主軸方位：N-41°-E。重複：SI-01・SI-02・SK-06・SK-07・SD-02と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-01・SI-02より新しく、SK-06・SK-07・SD-02より古い。形状：残存部分から台形状を呈するものと想定される。規模：〈3.16〉m×2.16 m。残存深度：0.74 m。底面の状態：比較的平滑であるが段があり、南西側が高く北東側が低い。柱穴：確認されなかった。貼床：

確認されなかった。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C ・ 黒ボク土 ・ 総社砂層ブロックを含む暗灰色 ・ 灰黄褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

4 土坑

SK-01

欠番。検出した結果、井戸であることが判明し、SE-01 に遺構名を振り替えた。

SK-02 (遺構：第8図、P L. 4)

位置：X =42067 ~ 42068、Y =-74838 ~ -74839。重複：SI-01 ・ P-01 と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-01 より新しく、P-01 より古い。形状：残存部分から楕円形状を呈するものと想定される。規模：〈0.97〉 m × 0.80 m。残存深度：0.25 m。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C ・ 黒ボク土を含む暗褐色土ないし暗灰色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

SK-03 (遺構：第8図、P L. 4)

位置：X =42068 ~ 42070、Y =-74838 ~ -74839。重複：SI-01 ・ SX-01 と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-01 より新しく、SX-01 より古い。形状：残存部分から楕円形状を呈するものと想定される。規模：1.39 m × 〈0.62〉 m。残存深度：0.46 m。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C ・ 黒ボク土 ・ 総社砂層ブロックを含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

SK-04 (遺構：第8図、P L. 4)

位置：X =42065、Y =-74843 ~ -74844。重複：SK-05 ・ SD-03 と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：残存部分から楕円形状を呈するものと想定される。規模：〈0.67〉 m × 0.67 m。残存深度：0.37 m。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C ・ 黒ボク土を含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

SK-05 (遺構：第8図、P L. 4)

位置：X =42065 ~ 42067、Y =-74843 ~ -74844。重複：SK-04 ・ SD-03 と重複し、埋没土の観察から本遺構はSD-03 より新しく、SK-04 より古い。形状：残存部分から方形状ないし長方形を呈するものと想定される。規模：〈1.93〉 m × 〈0.80〉 m。残存深度：0.42 m。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C ・ 黒ボク土 ・ 総社砂層ブロックを含む黒褐色土ないし暗灰色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

SK-06 (遺構：第8図、P L. 4)

位置：X =42064 ~ 42066、Y =-74839 ~ -74840。重複：SI-01 ・ SI-02 ・ ST-03 と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：不整長方形を呈する。規模：2.07 m × 0.81 m。残存深度：

0.48 m。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土・総社砂層ブロックを含む灰黄褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

SK-07（遺構：第9図、P L. 5）

位置：X =42063～42065、Y =-74838～-74839。重複：SI-02・ST-03と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：残存部分から不整長方形状を呈するものと想定される。規模：1.89 m×0.82 m。残存深度：0.47 m。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土・総社砂層ブロックを含む灰黄褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

SK-08（遺構：第8図、P L. 5）

位置：X =42057～42058、Y =-74837～-74838。重複：SK-09と重複し、埋没土の観察から本遺構はSK-09より新しい。形状：残存部分から楕円形状を呈するものと想定される。規模：〈1.19〉m×〈0.58〉m。残存深度：0.29 m。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土を含む暗灰色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

SK-09（遺構：第9図、P L. 5）

位置：X =42057～42060、Y =-74837～-74838。重複：ST-01・SK-08・SK-10と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より古い。形状：残存部分から楕円形状ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈1.52〉m×〈0.97〉m。残存深度：0.14 m。遺構埋没状態：A s - C・砂粒を含む黒褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C降下からA s - B降下間と想定される。

SK-10（遺構：第9図、P L. 5）

位置：X =42059～42060、Y =-74837～-74839。重複：ST-01・ST-02・SK-09と重複し、埋没土の観察から本遺構はSK-09より新しく、ST-01・ST-02より古い。形状：残存部分から方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：2.35 m×〈1.13〉m。残存深度：0.19 m。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土を含む黒褐色土ないし暗褐色土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。備考：最下層に焼骨の可能性を有する物質が少量確認された。墓の可能性を含むものである。

5 井戸

SE-01（遺構：第9図、P L. 5）

位置：X =42074～42076、Y =-74842～-74843。重複：SI-04・SD-01と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：平面形状は不整円形状を呈する。断面形状は基本的に円筒状を呈するが、中位のみ算盤玉状に挟れる。規模：1.50 m×1.35 m。残存深度：0.95 m。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土・総社砂層ブロックを含む暗灰色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

6 溝

SD-01 (遺構：第10図、P L. 5 / 遺物：第14図、第3表、P L. 8)

位置：X =42074 ~ 42079、Y =-74839 ~ -74844。主軸方位：N -55° - E。重複：SI-04・SI-05・SE-01・SD-04・SD-08・SX-02・P-02と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-04・SI-05・SD-08・SX-02より新しく、SE-01・SD-04・P-02より古い。規模：上端幅1.57 m ~ 1.69 m、下端幅0.33 m ~ 0.45 m。残存深度：0.50 m。断面形態：葉研状を呈する。底面の状態：鋤き込み痕と想定される凸凹が顕著に見られ、北東から南東へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：A s - C・砂粒・黒ボク土・総社砂層ブロックを含む暗褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から少量の土器が出土している。時期：出土遺物から7世紀前半と想定される。

SD-02 (遺構：第10図、P L. 6)

位置：X =42065 ~ 42068、Y =-74840 ~ -74841。主軸方位：N - 3° - W。重複：SI-01・SI-02・ST-03と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。規模：上端幅0.52 m ~ 0.68 m、下端幅0.39 m ~ 0.47 m。残存深度：0.27 m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：比較的平坦で、傾斜は見られない。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土を含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

SD-03 (遺構：第11図、P L. 5)

位置：X =42067 ~ 42074、Y =-74838 ~ -74843。主軸方位：N -37° - E。重複：SI-01・SK-04・SK-05・SD-07と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-01・SD-07より新しく、SK-04・SK-05より古い。規模：上端幅1.14 m ~ 1.60 m、下端幅0.20 m ~ 0.80 m。残存深度：0.27 m。断面形態：北東側は皿状を呈するが、南西側へ進むとテラス状の段を有する形状へ変化する。底面の状態：鋤き込み痕と想定される凸凹が顕著に見られ、北東から南東へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：A s - C・砂粒・黒ボク土を含む暗褐色・黒褐色・暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C降下からA s - B降下間と想定される。

SD-04 (遺構：第10図、P L. 6)

位置：X =42076、Y =-74839 ~ -74842。主軸方位：N -87° - E。重複：SI-04・SI-05・SD-01・SD-08・SX-02と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。規模：上端幅0.28 m ~ 0.32 m、下端幅0.11 m ~ 0.15 m。残存深度：0.07 m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：比較的平坦で、傾斜は見られない。遺構埋没状態：A s - B・A s - Cを含む暗色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

SD-05a (遺構：第10図、P L. 6)

位置：X =42072 ~ 42075、Y =-74839 ~ -74845。主軸方位：N -66° - E。重複：SI-04・SI-05・SD-05b・SD-08と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。規模：上端幅0.46 m ~ 0.65 m、下端幅0.14 m ~ 0.23 m。残存深度：0.08 m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：凹凸は少なく、北東から南東へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：A s - C・砂粒を含む暗灰色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C降下からA s - B降下間と想定さ

れる。

SD-05b (遺構：第11図、P L. 6)

位置：X =42072 ~ 42076、Y =-74839 ~ -74845。主軸方位：N -64° - E。重複：SI-04・SI-05・SD-05a・SD-08と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-04・SI-05・SD-08より新しく、SD-05aより古い。規模：上端幅0.53 m ~ 1.02 m、下端幅0.16 m ~ 0.26 m。残存深度：0.31 m。断面形態：逆台形状を呈するが、部分的にテラス状の段が見られる。底面の状態：比較的平坦で、傾斜は見られない。遺構埋没状態：A s - C・砂粒・黒ボク土を含む暗灰色土ないし黒褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C降下からA s - B降下間と想定される。

SD-06

欠番。調査の結果、現代の耕作痕と判断された。

SD-07 (遺構：第11図、P L. 6)

位置：X =42068 ~ 42069、Y =-74843 ~ -74844。主軸方位：N -57° - E。重複：SD-03と重複し、埋没土の観察から本遺構はSD-03より古い。規模：上端幅0.28 m ~ 0.36 m、下端幅0.09 m ~ 0.10 m。残存深度：0.10 m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：凸凹は少なく、南西から北東へ向けて標高を減ずる。遺構埋没状態：A s - C・砂粒を含む暗褐色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C降下からA s - B降下間と想定される。

SD-08 (遺構：第12図、P L. 6)

位置：X =42071 ~ 42078、Y =-74839 ~ -74842。主軸方位：N -23° - E。重複：SI-04・SI-05・SD-01・SD-04・SD-05a・SD-05b・SX-02と重複し、埋没土の観察から本遺構はSI-04・SI-05・SX-02より新しく、SD-01・SD-04・SD-05a・SD-05bより古い。規模：上端幅0.74 m ~ 1.18 m、下端幅0.23 m ~ 0.85 m。残存深度：0.11 m。断面形態：浅い皿状を呈する。底面の状態：起伏に富むが、明確な傾斜は見られない。遺構埋没状態：A s - C・砂粒・黒ボク土・H r - F Aブロックを含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C降下から古墳時代後期間と想定される。

7 性格不明遺構

SX-01 (遺構：第12図、P L. 6)

位置：X =42070 ~ 42071、Y =-74838。主軸方位：N - 6° - W。重複：SI-01・SK-03と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：残存部分から方形状ないし長方形を呈するものと想定される。規模：1.82 m × (0.24) m。残存深度：0.54 m。底面の状態：多少の凸凹が見られるが、平坦である。付随施設：確認されなかった。遺構埋没状態：A s - B・A s - C・黒ボク土・総社砂層ブロックを含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B降下以降と想定される。

SX-02 (遺構：第12図、P L. 6)

位置：X =42076 ~ 42077、Y =-74840 ~ -74842。主軸方位：不明。重複：SI-04・SI-05・SD-01・SD-04・

SD-08 と重複し、埋没土の観察から本遺構は SI-04・SI-05 より新しく、SD-01・SD-04・SD-08 より古い。形状：不整形。規模：〈2.20〉 m × 1.15 m。残存深度：0.15 m。底面の状態：起伏に富み、東へ向かうにつれ標高を減ずる。付随施設：確認されなかった。遺構埋没状態：A s - C ・ 砂粒 ・ 黒ボク土 ・ 総社砂層ブロックを含む灰黄褐色 ・ 暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - C 降下から A s - B 降下間と想定される。

8 ピット

P-01 (遺構：第 8 図、P L. 4)

位置：X =42067、Y =-74838。重複：SI-01・SK-02 と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：残存部分から楕円形状を呈するものと想定される。規模：0.58 m × 〈0.29〉 m。残存深度：0.43 m。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C ・ 黒ボク土を含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

P-02 (遺構：第 12 図)

位置：X =42076 ~ 42077、Y =-74842 ~ -74843。重複：SI-04・SD-01 と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より新しい。形状：隅丸形状を呈する。規模：0.42 m × 0.36 m。残存深度：0.22 m。遺構埋没状態：A s - B ・ A s - C を含む暗灰色土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は確認されなかった。時期：A s - B 降下以降と想定される。

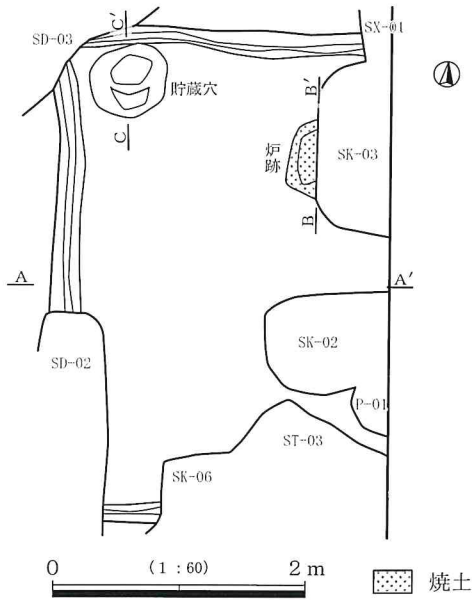
9 畠 (遺構：第 4 図、P L. 7)

遺構確認面としたⅢ層上面において、東西および南北方向に並走する浅い溝が多数条確認され、これを畠の耕作痕と捉えた。耕作痕として捉えられた部分は所謂、畝間の溝部分と言える。埋没土は A s - C が混入する黒褐色土で古墳時代前期と位置付けた SI-01 ~ SI-05 の埋没土に類似する。このため、帰属時期は住居跡に近いものと推測されるが、新旧関係を捉えるには至らなかった。畝間の溝幅は概ね 25 cm で溝の上端間は 50 cm 程である。なお、耕作方向が南北と東西の 2 方向確認できることから、畝替えが行われたものと想定され、少なくとも 2 回以上にわたり耕作が行われていたと言えよう。

10 遺構外出土遺物 (遺物：第 15 図、第 3 表、P L. 9)

遺構外出土遺物として 7 点の遺物を提示した。1 は縄文時代前期中葉に帰属する黒浜式期の深鉢片である。2・3 は縄文時代中期後葉の加曾利 E 式の深鉢片で、2 は加曾利 E Ⅲ式期に比定されるが、3 は縄文部分の残存に留まるため詳細時期の限定は避けたい。しかしながら、胎土・色調・使用原体・器厚から加曾利 E Ⅲ式期と想像できるものとも言える。今回の調査で縄文時代の遺構は検出されなかったが、本遺跡周辺において当該期の遺跡が存在する可能性を示すものでもある。4・5・6 はいずれも古墳時代前期に帰属するもので、4・5 は台付甕、6 は壺である。これらの遺物は、本遺跡で検出された 5 軒の住居跡と同一時期のものであり、いずれかの住居跡に伴うものの可能性が高いものと言えよう。7 は石器で本遺跡の出土遺物を総体的に概観した様子から縄文時代に帰属するものと想定され、頁岩製のスクレイパーと考えられる。

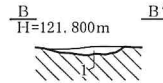
SI-01



SI-01 土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性あり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

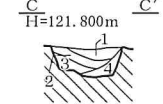
炉跡



SI-01 炉跡土層説明

1. 暗褐色土 焼土多量、A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

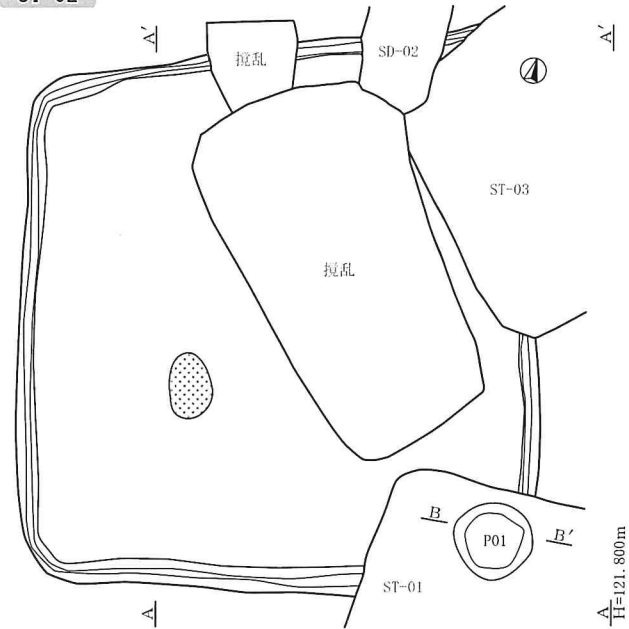
貯蔵穴



SI-01 貯蔵穴土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量、総社砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量・総社砂層ブロック φ0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性あり。

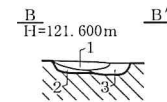
SI-02



SI-02 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm多量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 黒褐色土 砂粒少量、A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性あり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

P01

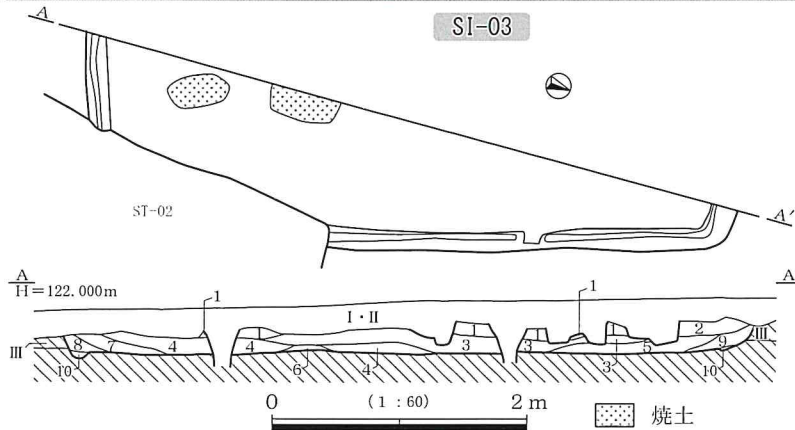


SI-02 P01 土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量、総社砂層ブロック φ0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。



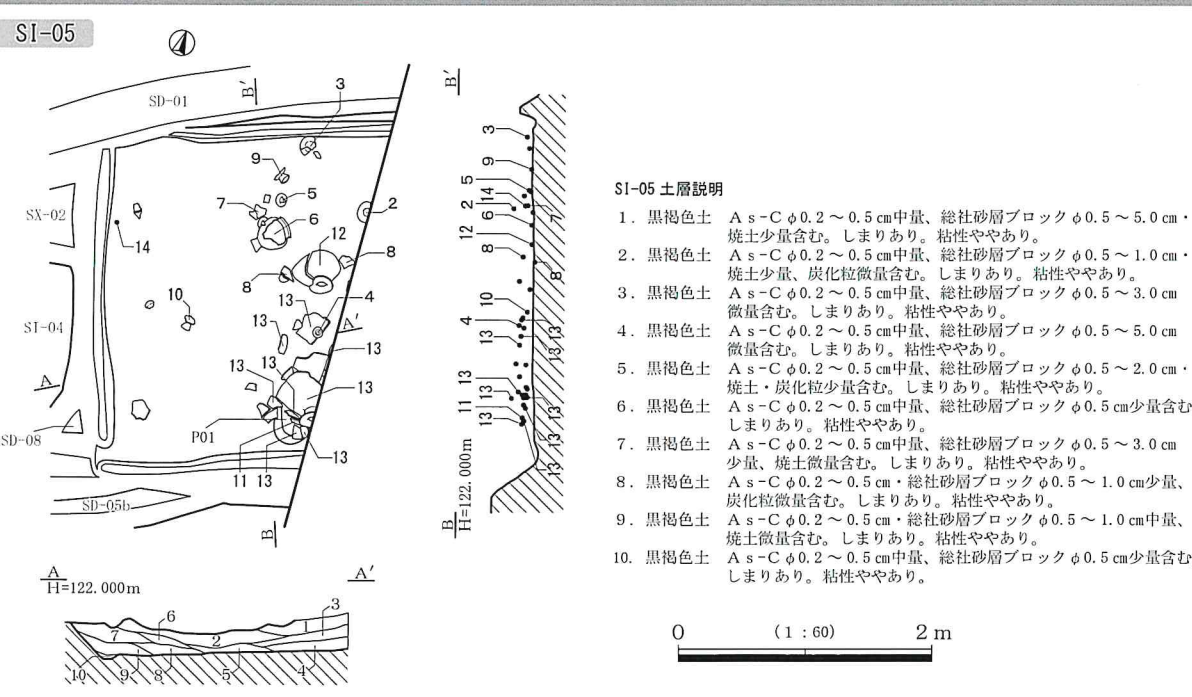
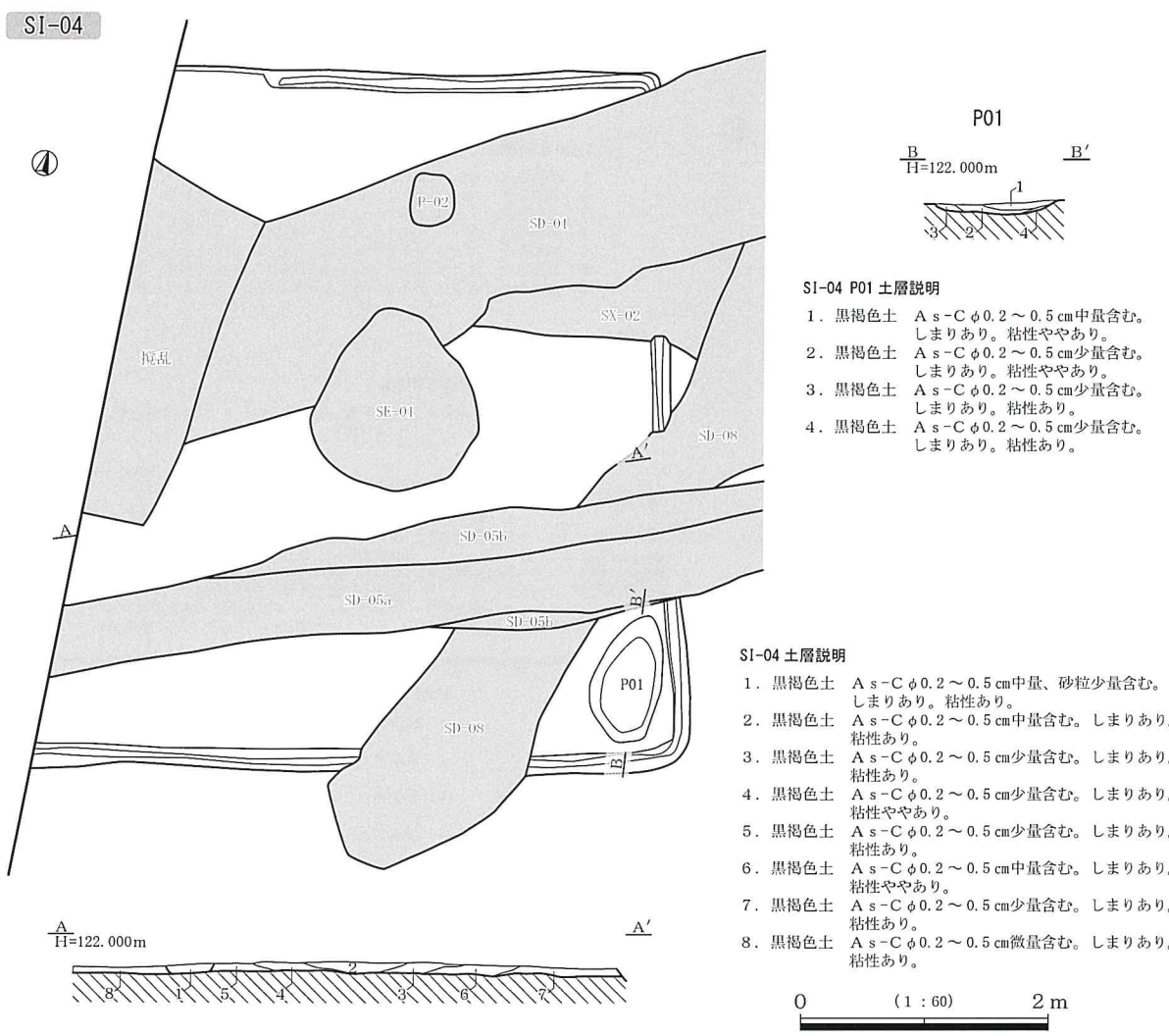
SI-03



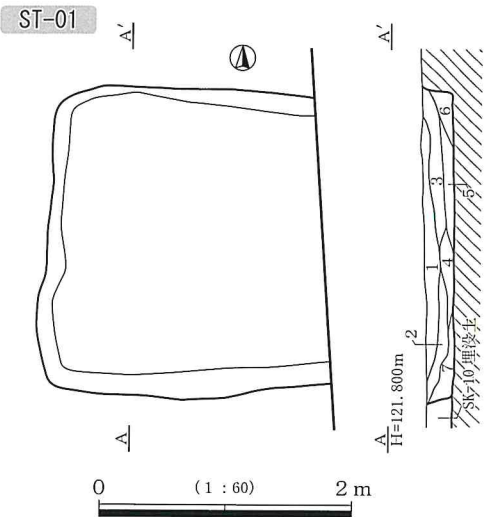
SI-03 土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。
6. 褐色土 焼土多量、A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
8. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性あり。
9. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
10. 黒褐色土 A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

第5図 遺構実測図①

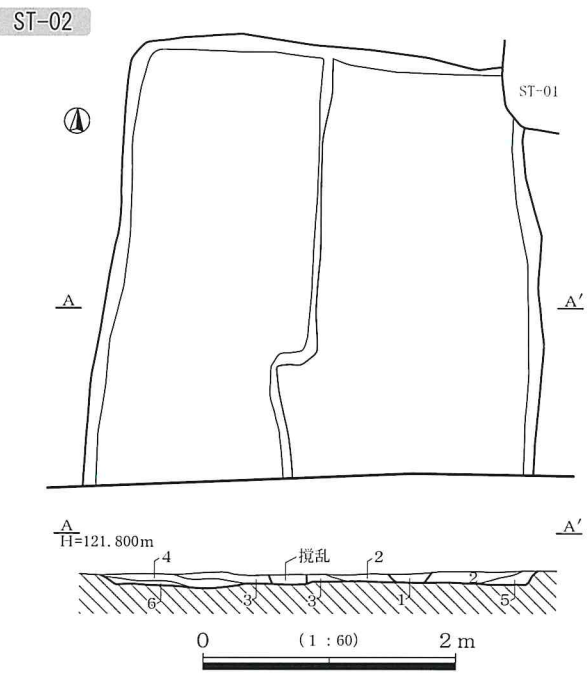


第6図 遺構実測図②



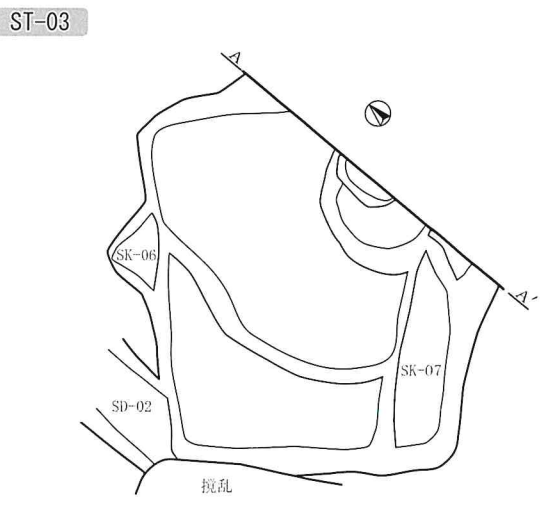
ST-01 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量, 炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・黒ボク土中量, 炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量, 黒ボク土少量, 炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土中量, A s-C φ0.2 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
7. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。



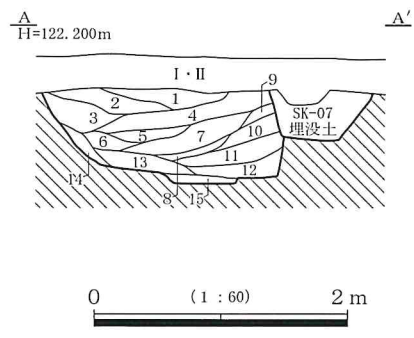
ST-02 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 3.0 cm少量, 炭化粒微量含む。しまりやや強。粘性ややあり。
4. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量, 黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-B φ0.2 ~ 0.5 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-B φ0.2 ~ 0.5 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。



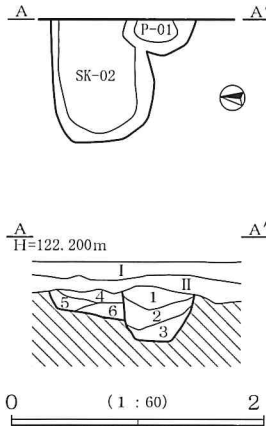
ST-03 土層説明

1. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm・黒ボク土中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 総社砂層ブロック φ0.5 ~ 3.0 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3. 暗褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 4.0 cm少量, 炭化粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
5. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 総社砂層ブロック φ0.5 cm少量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm・黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性弱。
6. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 4.0 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
7. 黒褐色土 黒ボク土多量, A s-B φ0.2 cm・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 3.0 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
8. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm・砂粒中量, 黒ボク土少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
9. 暗褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
10. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 5.0 cm少量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量, しまりあり。粘性やや弱。
11. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 黒褐色土 A s-B φ0.2 ~ 0.5 cm中量, 総社砂層ブロック φ0.5 cm・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 総社砂層ブロック φ0.5 cm・黒ボク土少量, A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
14. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・総社砂層ブロック φ0.5 ~ 10.0 cm中量, 黒ボク土・A s-C φ0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 黒色土 総社砂層ブロック φ0.5 ~ 1.0 cm中量, A s-B φ0.2 cm少量含む。しまり強。粘性あり。



第7図 遺構実測図③

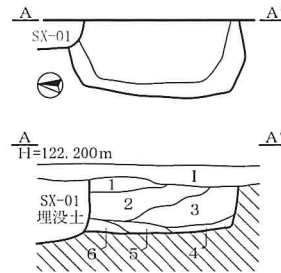
SK-02・P-01



SK-02・P-01 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりややあり。粘性弱。P-01 埋没土。
2. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土少量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。P-01 埋没土。
3. 暗褐色土 黒ボク土中量, A s-B φ0.2 cm少量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。P-01 埋没土。
4. 暗褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 黒ボク土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。SK-02 埋没土。
5. 暗褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。SK-02 埋没土。
6. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性弱。SK-02 埋没土。

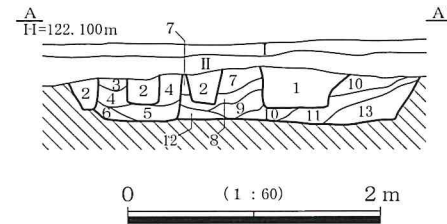
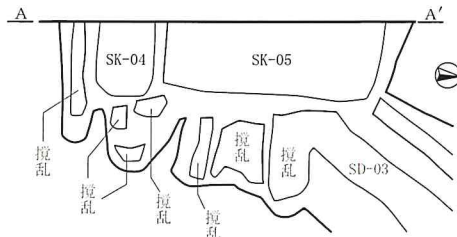
SK-03



SK-03 土層説明

1. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。
3. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・黒ボク土中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりやや強。粘性ややあり。
5. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
6. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・黒ボク土中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

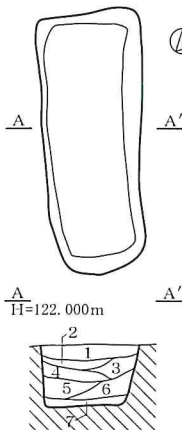
SK-04・SK-05



SK-04・SK-05 土層説明

1. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 炭粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 黒ボク土微量含む。しまり弱。粘性弱。
3. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 黒ボク土少量含む。しまり弱。粘性弱。SK-04 埋没土。
4. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量, 炭粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。SK-04 埋没土。
5. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm少量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。SK-04 埋没土。
6. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。SK-04 埋没土。
7. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。SK-05 埋没土。
8. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。SK-05 埋没土。
9. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量, 焼土微量含む。しまりやや強。粘性やや弱。SK-05 埋没土。
10. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm・A s-C φ0.2~0.5 cm少量, 総社砂層ブロック φ0.5 cm微量含む。しまり弱。粘性やや弱。SK-05 埋没土。
11. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。SK-05 埋没土。
12. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりやや強。粘性やや弱。SK-05 埋没土。
13. 黒褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。SK-05 埋没土。

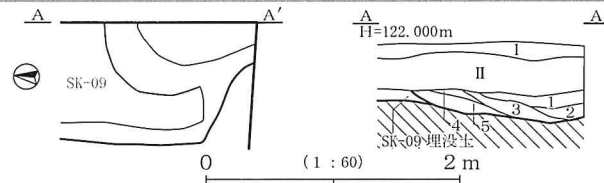
SK-06



SK-06 土層説明

1. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5~1.0 cm少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
2. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土・A s-C φ0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック φ0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5~2.0 cm少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
6. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土・総社砂層ブロック φ0.5 cm少量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
7. 灰黄褐色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土・A s-C φ0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック φ0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。

SK-08

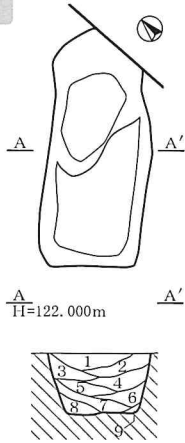


SK-08 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量, 炭粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, 黒ボク土少量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm・黒ボク土中量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

第8図 遺構実測図④

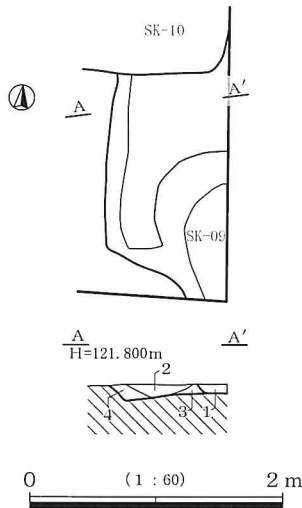
SK-07



SK-07 土層説明

1. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
3. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、黒ボク土中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。
4. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
5. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5~1.0 cm少量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性弱。
6. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
7. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性弱。
8. 灰黄褐色土 黒ボク土多量・A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。
9. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

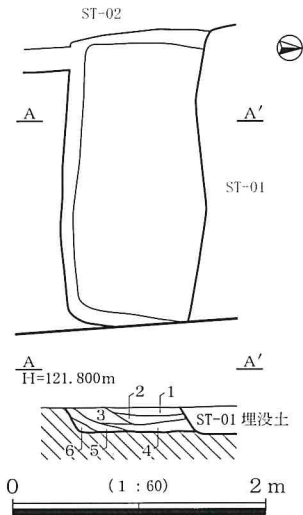
SK-09



SK-09 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。SK-08埋没土。
2. 暗褐色土 砂粒中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 砂粒少量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 砂粒・A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C ϕ 0.2~0.5 cm中量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

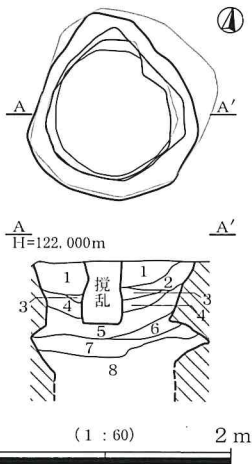
SK-10



SK-10 土層説明

1. 暗褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm・A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、黒ボク土中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm・黒ボク土・A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、黒ボク土・A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 黒ボク土中量、A s-B ϕ 0.2 cm・A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm・A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

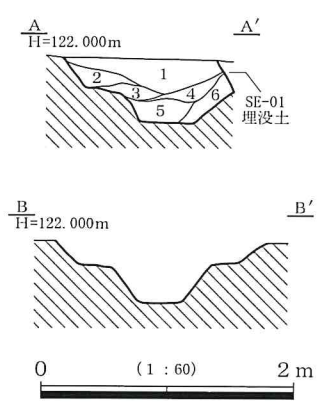
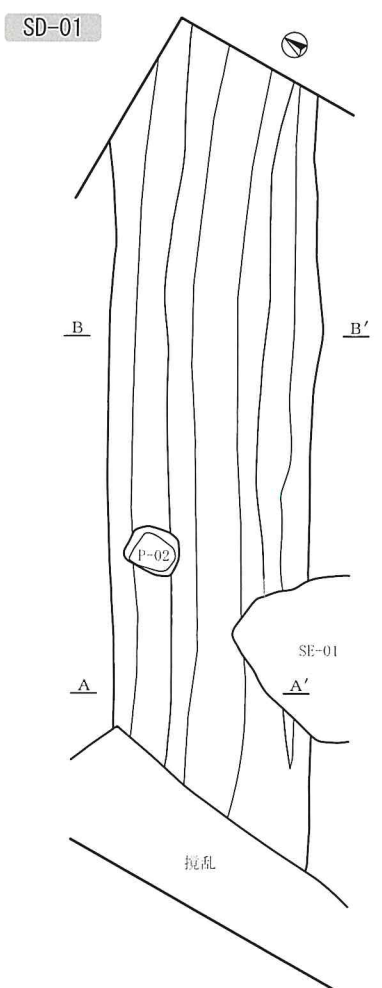
SE-01



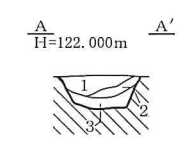
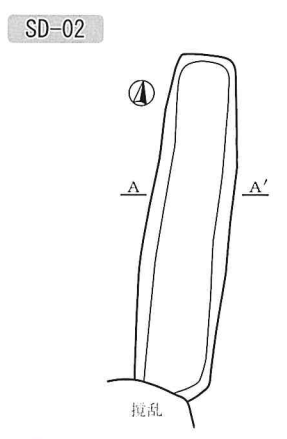
SE-01 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm少量、黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性弱。
2. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・黒ボク土微量含む。しまりややあり。粘性弱。
3. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
4. 暗褐色土 黒ボク土中量、A s-B ϕ 0.2 cm少量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、A s-C ϕ 0.2~0.5 cm・総社砂層ブロック ϕ 0.5~10.0 cm少量、黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性弱。
6. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm少量、A s-C ϕ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
7. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性弱。
8. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm中量、総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。

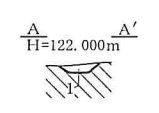
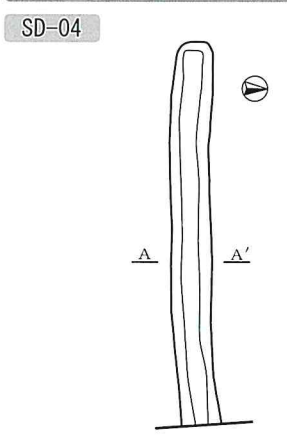
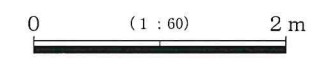
第9図 遺構実測図⑤



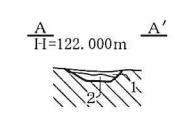
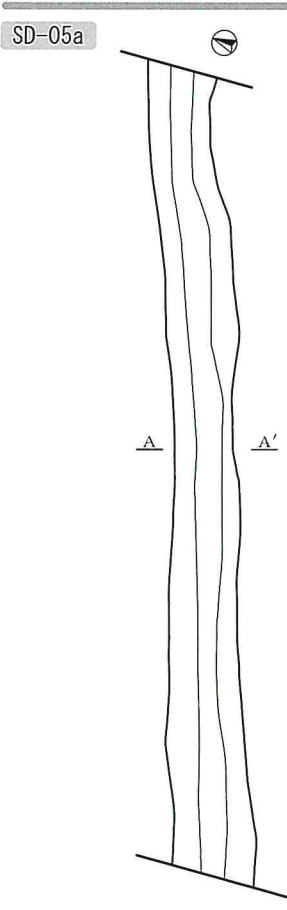
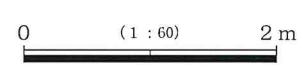
- SD-01 土層説明**
1. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 2. 暗褐色土 砂粒中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 3. 暗褐色土 砂粒中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 4. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 5. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒・総柱砂層ブロック φ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
 6. 暗褐色土 砂粒中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。



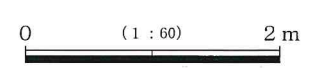
- SD-02 土層説明**
1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
 2. 暗褐色土 A s-B φ0.2 cm・黒ボク土中量, A s-C φ0.2~0.5 cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 3. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量, A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性弱。



- SD-04 土層説明**
1. 暗灰色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量, A s-B φ0.2 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

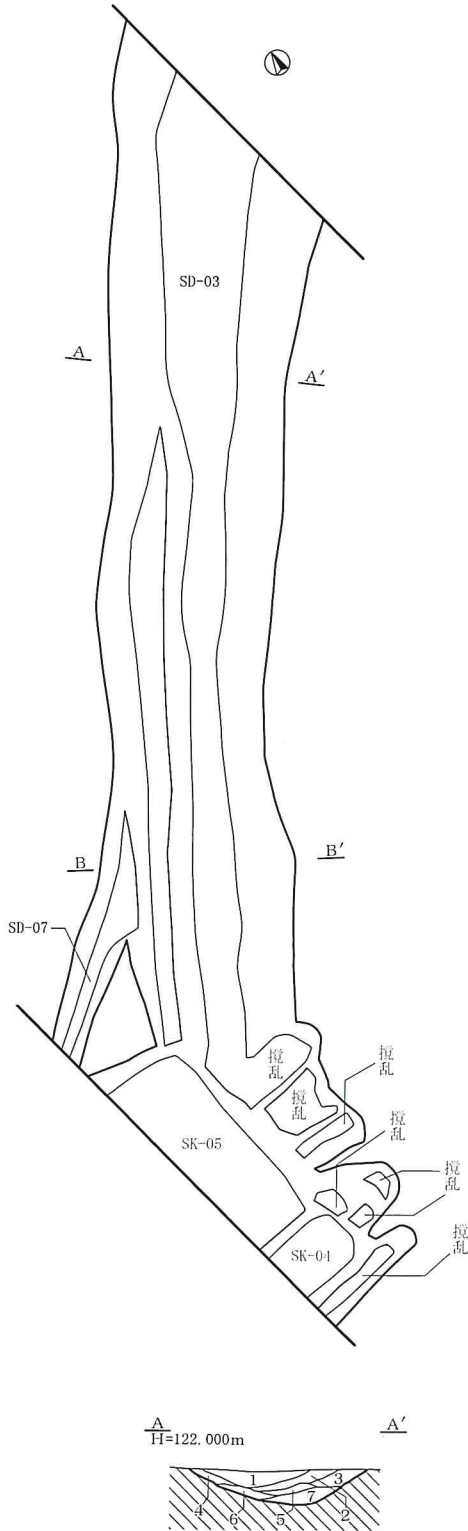


- SD-05a 土層説明**
1. 暗灰色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 2. 暗灰色土 砂粒中量, A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。



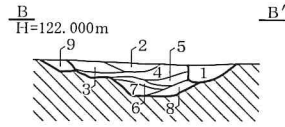
第 10 図 遺構実測図⑥

SD-03・SD-07



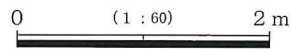
SD-03 S A-A' 土層説明

1. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒少量、総社砂層ブロックφ1.0 cm微量含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 暗褐色土 砂粒多量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
7. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒中量含む。しまりあり。粘性あり。

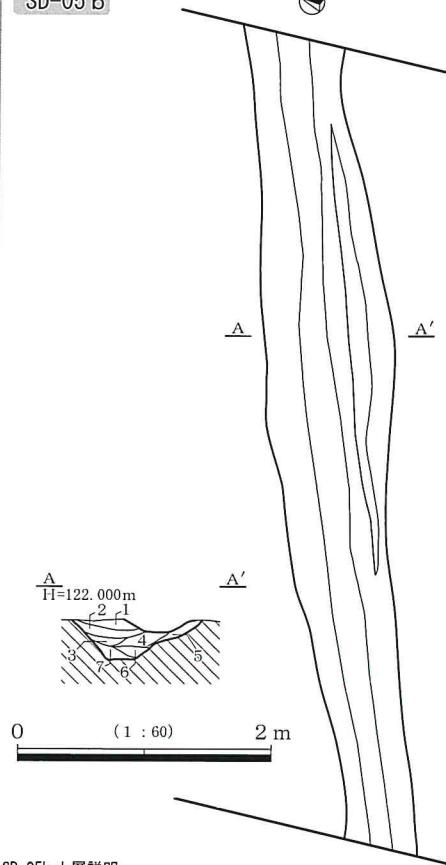


SD-03・SD-07 B-B' 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B φ0.2 cm中量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。現耕作土。
2. 暗灰色土 A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや強。SD-03 埋没土。
3. 暗褐色土 砂粒・A s-C φ0.2~0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性あり。SD-03 埋没土。
4. 暗褐色土 砂粒・A s-C φ0.2~0.5 cm中量、黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。SD-03 埋没土。
5. 暗灰色土 砂粒中量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量、黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。SD-03 埋没土。
6. 暗褐色土 砂粒多量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量、黒ボク土少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。SD-03 埋没土。
7. 暗褐色土 砂粒中量、A s-C φ0.2~0.5 cm・黒ボク土少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。SD-03 埋没土。
8. 暗褐色土 砂粒・黒ボク土中量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。SD-03 埋没土。
9. 暗褐色土 砂粒多量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。SD-07 埋没土。



SD-05 b

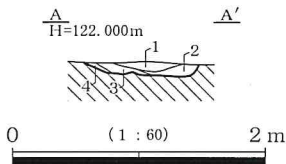
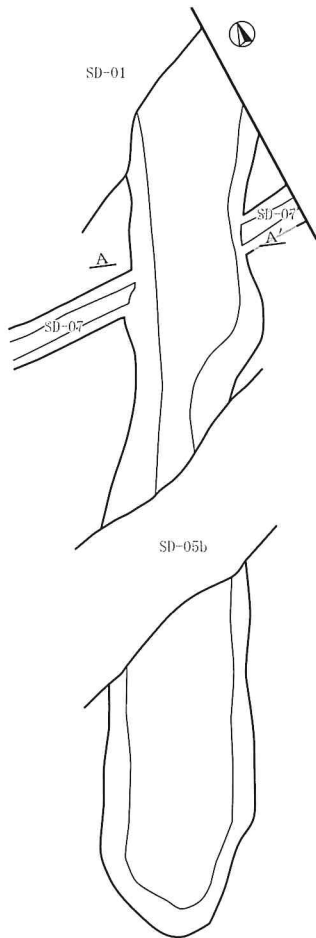


SD-05b 土層説明

1. 暗灰色土 砂粒中量、A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗灰色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
3. 暗灰色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・砂粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗灰色土 砂粒・A s-C φ0.2~0.5 cm中量、黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性あり。
5. 暗灰色土 黒ボク土中量、砂粒・A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量、砂粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
7. 黒褐色土 砂粒・A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性あり。

第 11 図 遺構実測図⑦

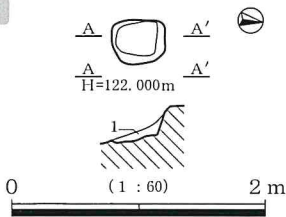
SD-08



SD-08 土層説明

1. 灰黄褐色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、H r-F A ブロック ϕ 0.5 ~ 2.0 cm ・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 暗灰色土 砂粒・A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3. 暗灰色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性弱。
4. 暗灰色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性弱。

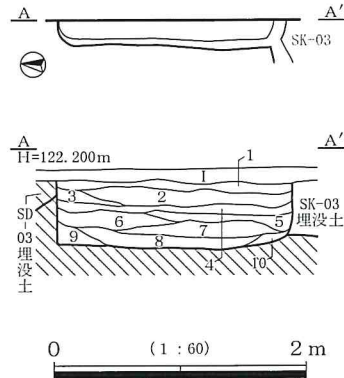
P-02



P-02 土層説明

1. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、A s-C ϕ 0.2 cm 微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

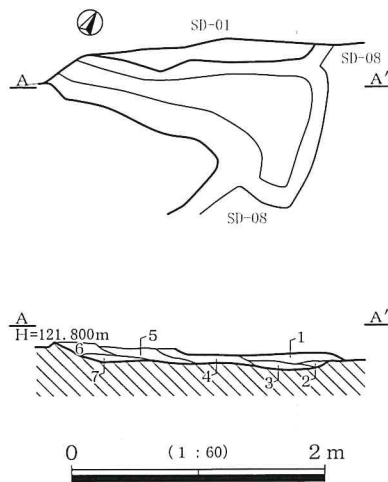
SX-01



SX-01 土層説明

1. 灰黄褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm ・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 暗褐色土 A s-B ϕ 0.2 cm ・A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm ・黒ボク土中量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
3. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、黒ボク土少量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
4. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm ・黒ボク土中量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm ・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、黒ボク土・A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりやや強。粘性弱。
6. 暗灰色土 黒ボク土多量、A s-B ϕ 0.2 cm 中量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm ・総社砂層ブロック ϕ 0.5 cm 微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
7. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、黒ボク土少量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
8. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
9. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、黒ボク土微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
10. 暗灰色土 A s-B ϕ 0.2 cm 中量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm ・黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

SX-02



SX-02 土層説明

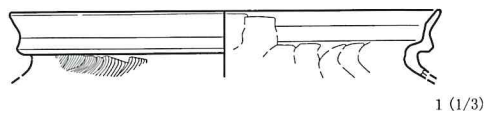
1. 灰黄褐色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土 砂粒・A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗灰色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm ・黒ボク土中量含む。しまりあり。粘性弱。
4. 灰黄褐色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5 ~ 1.0 cm 少量含む。しまりあり。粘性弱。
5. 暗灰色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土・総社砂層ブロック ϕ 0.5 ~ 1.0 cm 少量含む。しまりあり。粘性弱。
6. 暗褐色土 砂粒・A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 灰黄褐色土 砂粒多量、A s-C ϕ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、黒ボク土少量含む。しまりあり。粘性弱。

第 12 図 遺構実測図⑧

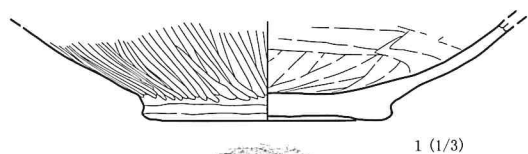
SI-01



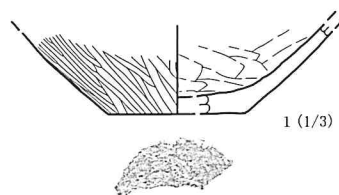
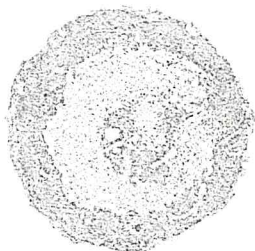
SI-02



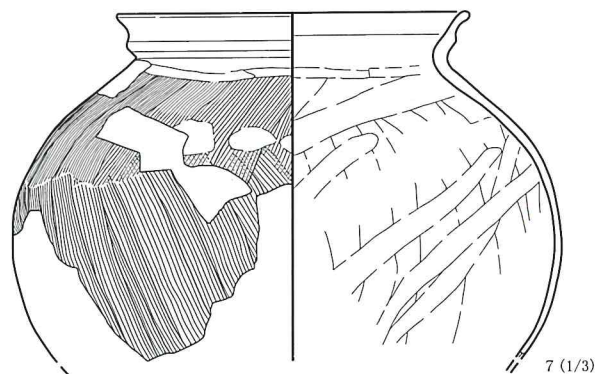
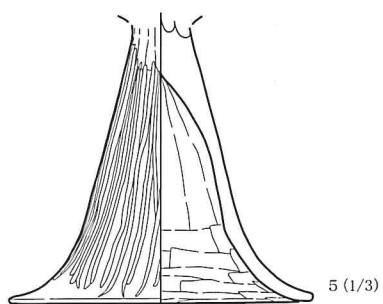
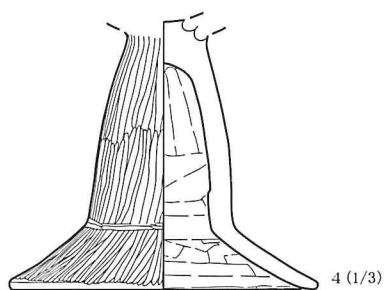
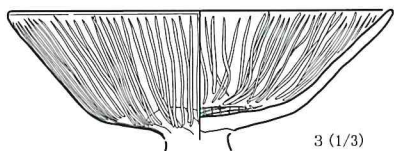
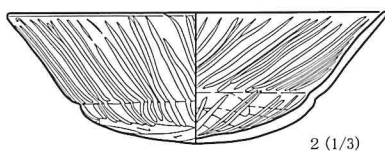
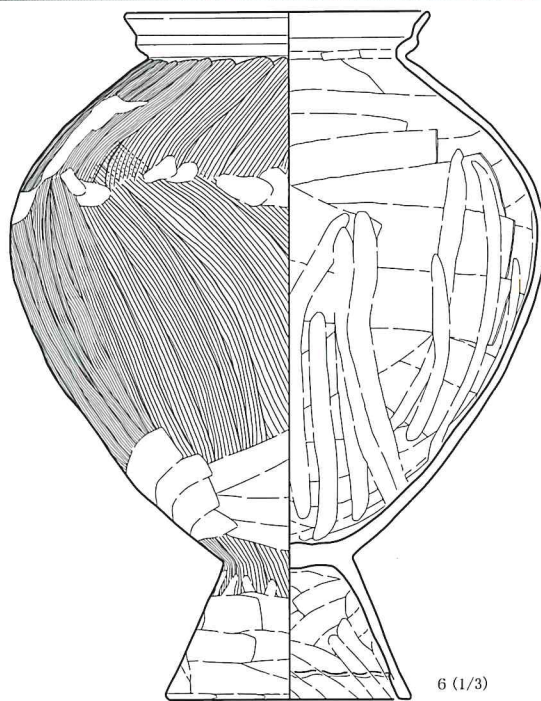
SI-04



SI-03



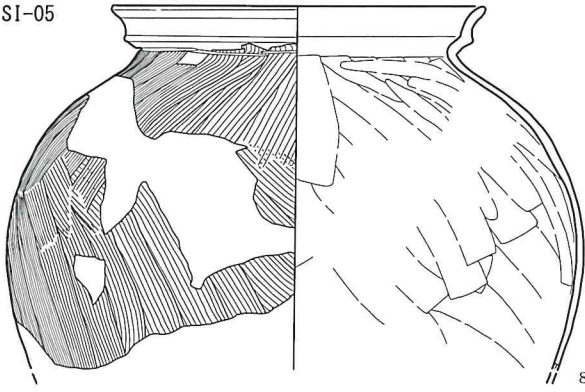
SI-05



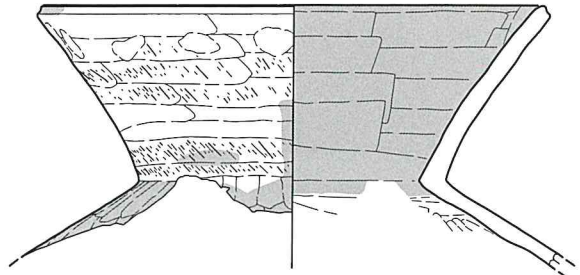
0 (1 : 3) 10 cm

第 13 图 遗物实测图①

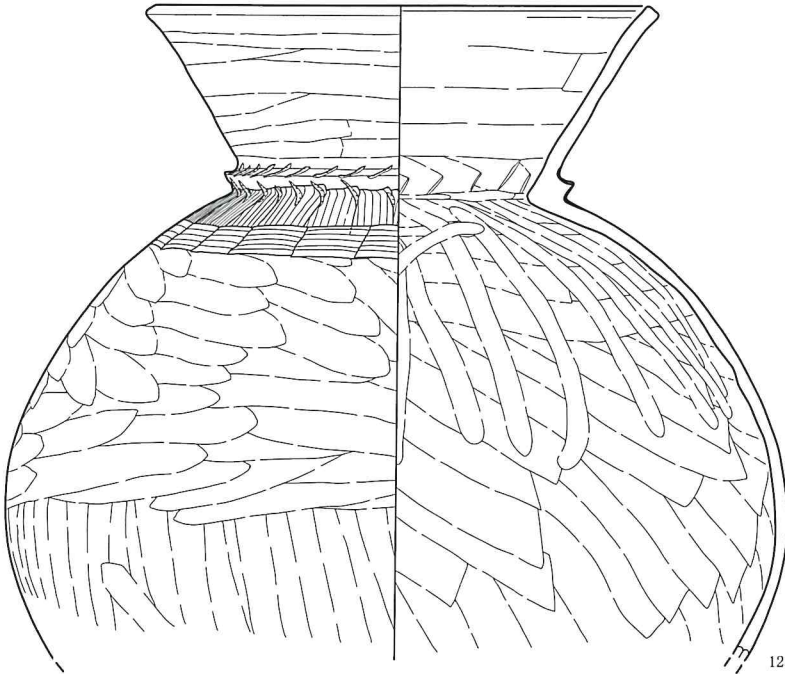
SI-05



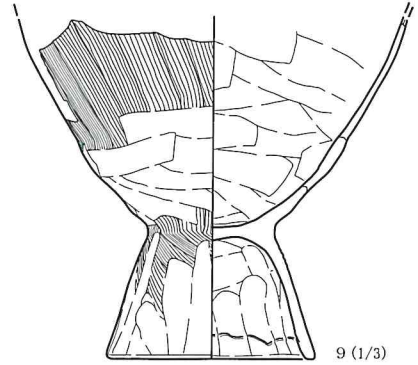
8 (1/3)



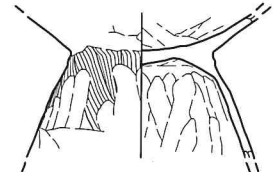
11 (1/3)



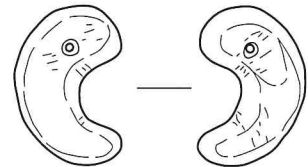
12 (1/3)



9 (1/3)

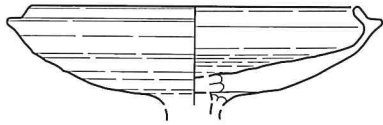


10 (1/3)

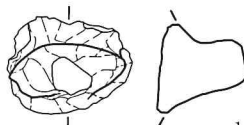


14 (1/1)

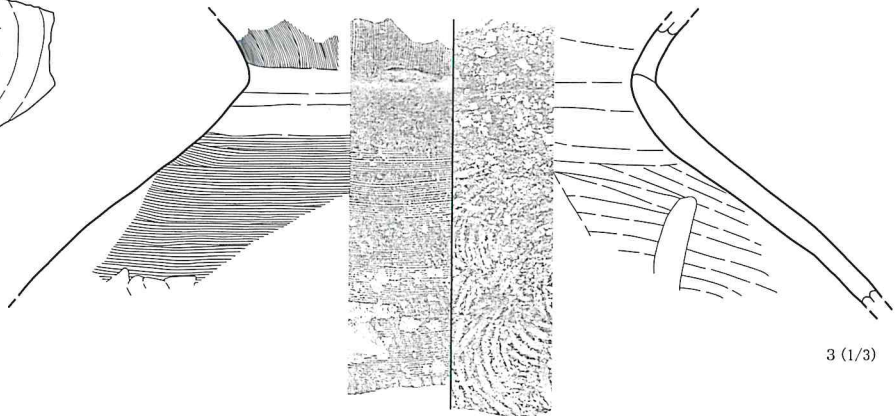
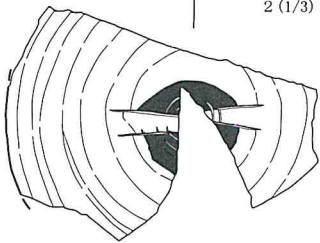
SD-01



2 (1/3)



1 (1/3)



3 (1/3)

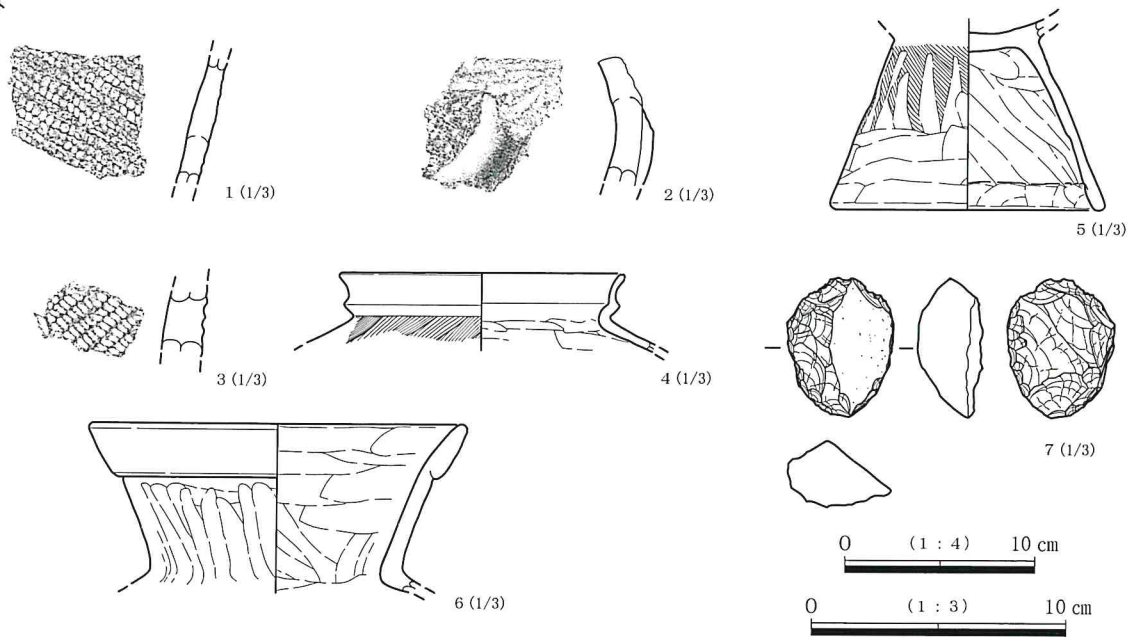
0 (1 : 1) 2 cm

0 (1 : 3) 10 cm

第 14 图 遗物实测图②



遺構外



第 15 図 遺物実測図③

SI-01

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 台付甕	①酸化焰②灰黄③白色粒・チャート・黒色鉱物④脚部片	口径：－ 底径：(10.4) 器高：(3.9)	外面：篋ナデ。 内面：篋ナデ。	SD01 覆土中

SI-02

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 台付甕	①酸化焰②灰黄③白色粒・チャート・黒色鉱物④口縁～肩部 1/5	口径：(17.0) 底径：－ 器高：(2.7)	外面：口縁部ヨコナデ。肩部刷毛目。 内面：口縁部ヨコナデ。肩部篋ナデ。	SD02 覆土中
2	土師器 台付甕	①酸化焰②灰黄③白色粒・チャート・黒色鉱物④脚部片	口径：－ 底径：(9.6) 器高：(3.4)	外面：篋ナデ。 内面：篋ナデ。	SD02 覆土中

SI-03

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 甕	①酸化焰②にぶい黄橙③白色粒・石英・黒色鉱物④体部下位～底部 1/5	口径：－ 底径：(5.4) 器高：(3.5)	外面：体部下位ミガキ。底面篋ナデ。 内面：篋ナデ。	SD03 覆土中

SI-04

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 甕	①酸化焰②黄橙③白色粒・チャート・黒色鉱物・黒色粒④体部下位～底部	口径：－ 底径：9.2 器高：(3.9)	外面：体部下位ミガキ。底面篋ナデ。 内面：篋ナデ。	SD04 覆土中

SI-05

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	ミニチュア土器	①酸化焰②橙③白色粒・チャート・黒色鉱物④体～底部 1/2	口径：－ 底径：－ 器高：(3.0)	外面：篋ナデ。 内面：篋ナデ。	SD05 覆土中
2	土師器 罎	①酸化焰②にぶい黄橙③白色粒・石英・チャート・黒色粒④ほぼ完形	口径：15.0 底径：－ 器高：5.2	外面：口縁～体部上位ヨコナデ後放射状のミガキ。体部下位～底部篋ナデ後放射状のミガキ。 内面：口縁～体部上位ヨコナデ後放射状のミガキ。体部下位～底部指ナデ後放射状のミガキ。	SD05 No. 29
3	土師器 高坏	①酸化焰②橙③白色粒・チャート・黒色鉱物・雲母④坏部 2/3	口径：15.2 底径：－ 器高：(5.1)	外形：口縁～体部ヨコナデ後放射状のミガキ。底部篋ナデ後放射状のミガキ。 内面：口縁～体部ヨコナデ後放射状のミガキ。見込み部篋ナデ後ミガキ。	SD05 No. 25・27
4	土師器 高坏	①酸化焰②橙③白色粒・石英・チャート・黒色鉱物④脚部 2/3	口径：－ 底径：(11.9) 器高：(10.7)	外面：ミガキ。 内面：篋ナデ。	SD05 No. 15・16
5	土師器 高坏	①酸化焰②にぶい黄橙③白色粒・チャート・黒色鉱物・雲母④脚部	口径：－ 底径：11.7 器高：(11.0)	外面：脚部上位篋ナデ後放射状のミガキ。下端部ヨコナデ後放射状のミガキ。 内面：篋ナデ。	SD05 No. 25
6	土師器 台付甕	①酸化焰②にぶい黄橙③チャート・片岩・雲母④口縁～体部上位 1/3 欠	口径：(11.9) 底径：9.5 器高：27.3	外面：口縁部ヨコナデ。体部刷毛目後下位篋ナデ。脚部刷毛目後篋ナデ・指ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部篋ナデ後一部指ナデ。脚部篋ナデ後一部指ナデ。	SD05 No. 21
7	土師器 台付甕	①酸化焰②橙③チャート・黒色鉱物④口縁～体部上位	口径：13.8 底径：－ 器高：(13.8)	外面：口縁部ヨコナデ。体部刷毛目後一部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部篋ナデ後一部指ナデ。	SD05 No. 22
8	土師器 台付甕	①酸化焰②にぶい黄橙③チャート・黒色鉱物④口縁～体部上位	口径：14.8 底径：－ 器高：(14.4)	外面：口縁部ヨコナデ。体部刷毛目。 内面：口縁部ヨコナデ。体部篋ナデ後一部指ナデ。	SD05 No. 18・19
9	土師器 台付甕	①酸化焰②にぶい黄橙③白色粒・チャート・片岩・雲母④体部下位～脚部	口径：－ 底径：8.0 器高：(13.6)	外面：体部下位刷毛目後篋ナデ。脚部刷毛目後指ナデ。 内面：体部下位篋ナデ。脚部篋ナデ後指ナデ。	SD05 No. 26
10	土師器 台付甕	①酸化焰②にぶい黄橙③石英・チャート・黒色鉱物・雲母④体部下位～脚部 1/4	口径：－ 底径：－ 器高：(5.7)	外面：体部下位刷毛目後篋ナデ。脚部刷毛目後指ナデ後下端篋ナデ。 内面：体部下端篋ナデ。脚部篋ナデ後指ナデ。	SD05 No. 4
11	土師器 壺	①酸化焰②にぶい黄橙③チャート・黒色鉱物・片岩④口縁～肩部 4/5	口径：19.8 底径：－ 器高：(10.0)	外面：赤彩残る。口縁部刷毛目後ヨコナデ。肩部篋ナデ。 内面：赤彩残る。口縁部ヨコナデ。肩部篋ナデ後指ナデ。	SD05 No. 31・33
12	土師器 壺	①酸化焰②にぶい黄橙③石英・チャート④口縁～体部中位	口径：19.5 底径：－ 器高：(26.0)	外面：口縁部と肩部間に刷毛目工具による連続刺突を有する横位突帯が付される。口縁部ヨコナデ。肩部に縦位刷毛目後連続する横位刷毛目後体部篋ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。肩～体部上位篋ナデ後指ナデ。体部下位篋ナデ。	SD05 No. 30
13	土師器 壺	①酸化焰②にぶい黄橙③白色粒・石英・チャート④口縁～体部下位 1/2	口径：21.5 底径：－ 器高：(57.5)	外面：口縁部刷毛目後篋ナデ後ミガキ・上端ヨコナデ後 2本1組の棒状粘土紐を貼付。体部刷毛目後ミガキ。 内面：口縁部ミガキ。肩部刷毛目。体部上位ミガキ。体部下位刷毛目。	SD05 No. 7・8・11・12・14・16・33・35・37、SD 1
遺物No.	器種	法量 (cm・g)、成・整形技法の特徴			注記・備考
14	石製品 勾玉	長さ：2.1 幅：1.4 厚さ：0.6 重さ 2.39 蛇紋岩製。両面穿孔。			SD05 No. 1

第2表 出土遺物観察表①

SD-01

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 瓶	①酸化焰②明赤褐③白色粒・チャート・黒色鉱物・黒色粒④把手部	口径：－ 底径：－ 器高：(3.5)	外面：指ナデ。 内面：剥落。	SD01 覆土中
2	須恵器高 坏	①還元焰②灰白③黒色粒④口縁～脚部 1/3	口径：(13.0) 底径：－ 器高：(3.9)	外面：轆轤整形。透孔は対面する2か所に穿たれる。坏部底面に脚部との接合痕残る。 内面：轆轤整形。	SD01 覆土中
3	須恵器甕	①還元焰②灰白③白色粒・チャート・黒色鉱物④頭～肩部 1/6	口径：－ 底径：－ 器高：(11.3)	外面：頸部刷毛目。肩部掻き目後上位轆轤整形、下位篋ナデ。 内面：頸部轆轤整形。肩部同心円状の当て具痕後篋ナデ。	SD01 覆土中

遺構外

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	縄文土器 深鉢	①良好②明赤褐③繊維・白色粒・石英・チャート・黒色鉱物④体部片	口径：－ 底径：－ 器高：(5.1)	単筋 RL 縄文が施される。	調査区一括 前期中葉黒浜式
2	縄文土器 深鉢	①普通②橙③白色粒・チャート・黒色鉱物④口縁部片	口径：－ 底径：－ 器高：(5.1)	口縁部文様帯に幅広沈線を脇に有する弧状隆帯・縄文が施される。	調査区一括 中期後葉加曾利E III式
3	縄文土器 深鉢	①良好②黄褐③白色粒・チャート・黒色鉱物・黒色粒④体部片	口径：－ 底径：－ 器高：(2.8)	0段多条 RL 縄文が縦位に施される。	調査区一括 中期後葉加曾利E式
4	土師器 台付甕	①酸化焰②灰オリーブ③白色粒・石英・チャート・黒色粒④口縁～肩部 1/4	口径：(11.2) 底径：－ 器高：(3.1)	外面：口縁部ヨコナデ。肩部刷毛目。 内面：口縁部ヨコナデ。肩部篋ナデ。	SD01 覆土中
5	土師器 台付甕	①酸化焰②にぶい黄橙③白色粒・チャート④脚部	口径：－ 底径：10.5 器高：(7.6)	外面：脚部上位は刷毛目後指ナデ。下位は篋ナデ。 内面：脚部は篋ナデ後下端部のみ指ナデ。見込み部篋ナデ。	SD08 覆土中
6	土師器 壺	①酸化焰②にぶい黄褐③チャート・黒色鉱物④口縁～肩部 1/6	口径：(14.8) 底径：－ 器高：(6.6)	外面：口縁部ヨコナデ。頭部～肩部篋ナデ。 内面：口縁～頸部刷毛目後指ナデ。肩部篋ナデ。	SD01 覆土中
遺物No.	器種	法量 (cm・g)、成・整形技法の特徴			注記・備考
7	石器 スクレイパー	長さ：5.5 幅：4.2 厚さ：2.6 重さ：56.67 頁岩製。			調査区一括

第3表 出土遺物観察表②

VI まとめ

1 古墳時代前期の遺構の位置づけ

本遺跡は「奈良平安No.46 遺跡」として周知される範囲内位に位置しており、遺跡名称の通り奈良・平安時代の包蔵層として捉えられていたが、結果として古墳時代前期の集落跡を確認するに至った。なお、当該期の遺構は、表土除去の段階で遺構確認面をⅢ層上面に設定することにより可能となる。なお、Ⅲ層は黒ボク土でその上位にはAs-C混土が堆積していたことが想像される。本遺跡では後世の削平によりこのAs-C混土層が基本土層として存在しなかったことから、埋没土にAs-Cが含まれる古墳時代前期の遺構が捉え易かったのだろう。これとは逆にAs-C混土が基本土層として残存するような遺跡では、当該期の遺構をAs-C混土上面で確認するのは困難な作業とも言える。As-C混土は本遺跡で確認されている畠跡が示すように土壌の攪拌等によって生じる層であり、近似する埋没土を有する古墳時代前期の遺構を求めるには同層上面での遺構確認は有効ではないのであろう。

本遺跡で古墳時代前期の住居跡は5軒確認されており、いずれの住居跡も4世紀後半代に帰属するものと位置付けられる。近隣の調査事例は少なく当該期の遺構は三ツ寺・七窓遺跡(2010 和久)の1号竪穴状遺構のみと言える。なお、同遺跡では基本土層にAs-C混土が存在し、さらに奈良・平安期の遺構確認に主眼を置いたため、As-C混土上面を遺構確認面としている。この状況下での古墳時代前期後半の遺構検出は評価されるべきことであろう。本遺跡から三ツ寺・七窓遺跡の距離は僅か150m程で、地形的な分断も見られないことから同一集落である可能性が高いのかもしれない。

視点をやや広げて本遺跡周辺を概観してみるても古墳時代前期の遺構検出例は少なく、後続する中期の遺跡が目立つ状況にある。三ツ寺遺跡 I 遺跡の豪族居館や保渡田古墳群の存在から当該地域の経済的基盤が 5 世紀代には確立していたのであろう。経済的基盤は短期間で確立するものではなく、ある一定の期間を要するものと考えられる。このため、基盤生成の黎明期を捉えていくことも必要と言えよう。

古墳時代前期前半になると S 字甕を有する集団が水田開発の技術とともに本県へ参入し、在地集団との関わりを保ちながら水田耕作域を拡大する様相が周知となっている。このような前期前半期の集落や水田は、前橋市の総社地域や井野川下流域に多くみられるが、本遺跡周辺では認められない。本遺跡周辺における古墳時代前期前半期の空白期の意義は大きく、新たに集落が構成され始めるのは本遺跡で検出された住居跡の時期にあたる前期後半と言えよう。空白期を経ての集落出現は、三ツ寺 I 遺跡や保渡田古墳群を作り出す経済的基盤の黎明期を示すのかもしれない。

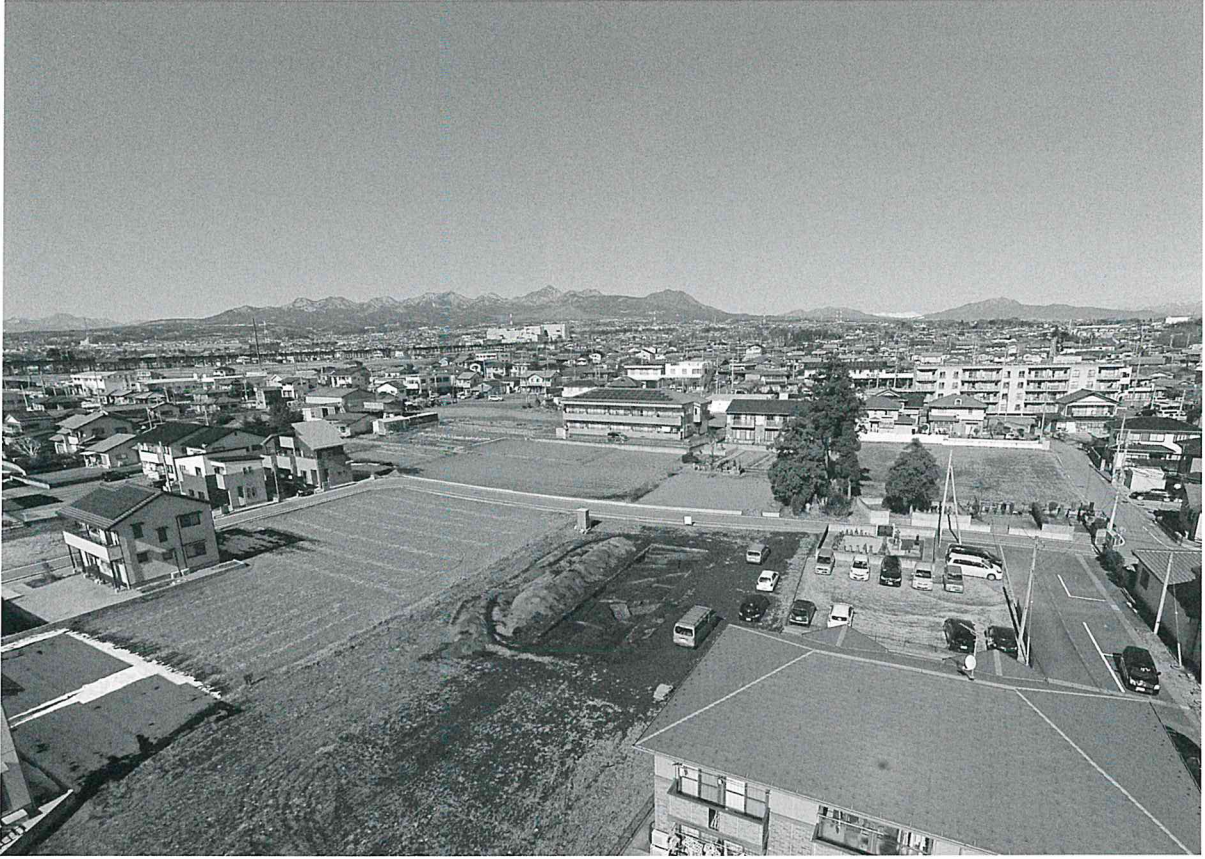
2 検出された溝について

今回の調査では 8 条の溝が検出されたが、東西ないし南北方向を示すものと北東-南西方向に走行するものとに二分できる。東西ないし南北方向の溝は SD-02・04 で埋没土中に A s - B 軽石を含むもので、これらの溝は A s - B 降下以降に位置づけられる。一方、その他の溝は、やはり埋没土の状況から大きく A s - C 降下から A s - B 降下間の帰属とし、時間幅を持たせた形の報告となった。ここでは、これら時間幅を持たせてしまった北東-南西方向に走行する溝についてより帰属時期を狭める作業を試みたく思う。なお、これら 6 条の溝 (SD-01・03・05a・05b・07・08) はほぼ同一方向にほぼ走行し、さらに調査区北側に集中することから、使用用途としては同性格と想定される。このような状況から推測されるのは用水路としての性格であるが、SD-01・03 の底面には工具痕が認められ、流水による底面の平滑化が見られない状態であった。

扱う 6 条の溝のうち重複関係から新旧を追えるのは、SD-01・08、SD-05a・05b・08、SD-03・07 で古い順に SD-08 → 01、SD-08 → 05b → 05a、SD-07 → 03 と把握できている。なお、帰属時期として SD-01 は埋没土中より 7 世紀前半の遺物出土が見られることから同溝は 7 世紀前半以前と想定される。また、SD-08 は埋没土中に多量の砂粒と少量の H r - F A が見られることから H r - F A に起因する洪水で埋没したものと考えられ、帰属時期は 6 世紀初頭と考えられる。なお、各溝の埋没土中には量の違いはあるものの、この洪水に起因するものと考えられる砂粒が含まれている。砂粒の混入量は溝の構築時期が下るほど少なくなるものと想定されるものであり、時間軸を計るには有効な手立てと考えられる。さらに、埋没土の色調からも推測が可能で、基本土層Ⅲ層 (黒ボク土：黒褐色土) の色調に近い土が入り込む遺構はより古い傾向を有するものと言えよう。一方、黒味の薄い土は度重なる土壌の攪拌によって生じるものであることから、新しい方向性を有するものと考えられる。これらの判断基準を加味すると、6 条の溝は 3 つの段階に分別でき、最古を第 1 段階とし、最新を第 3 段階とした。第 1 段階の溝は SD-07・08 でこれらの溝の埋没土には多量の砂粒が混入する。なお、先述した通り SD-08 の埋没土中には H r - F A の混入も見られることから、これらの溝の帰属時期は 6 世紀初頭に限りなく近いものと想定される。第 2 段階の溝は SD-03・05 b とした。これらの溝の埋没土には砂粒が中量含まれ、黒ボク土に類似した土が入るため黒味が強い傾向にある。第 3 段階の溝は残りの SD-01・05a となり、砂粒は中量含まれるが、埋没土の色調は明るい。SD-01 の埋没土中からは 7 世紀前半に比定される遺物が出土していることから、概ね当該期の溝と捉えられよう。このため、第 2 段階の時期は 6 世紀前半～後半と限定できよう。

今回検出された溝については、概ねの時期を付加するに留まったが、長期間にわたり同一方向の溝を構築し続ける様相は大きな意味を有するもので、性格を明確にしていく必要性が強いものと言えよう。

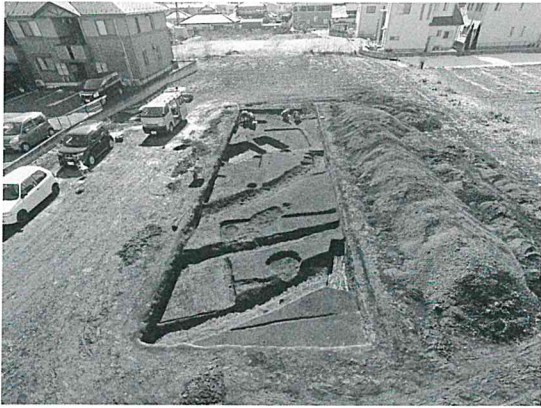
写真図版



中泉十王堂遺跡遠景（南東から）



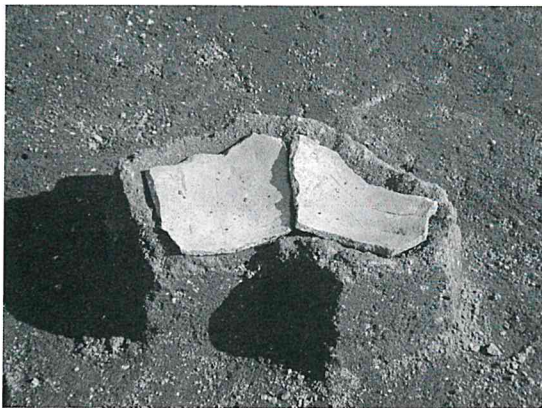
中泉十王堂遺跡全景（上が西）



中泉十王堂遺跡全景（北から）



SI-01 全景（南から）



SI-01 遺物出土状況（西から）



SI-01 炉跡全景（南から）



SI-01 貯蔵穴全景（南から）



SI-02 全景（南から）



SI-02P01 全景（南から）



SI-03 全景（南東から）



SI-04 全景 (南から)



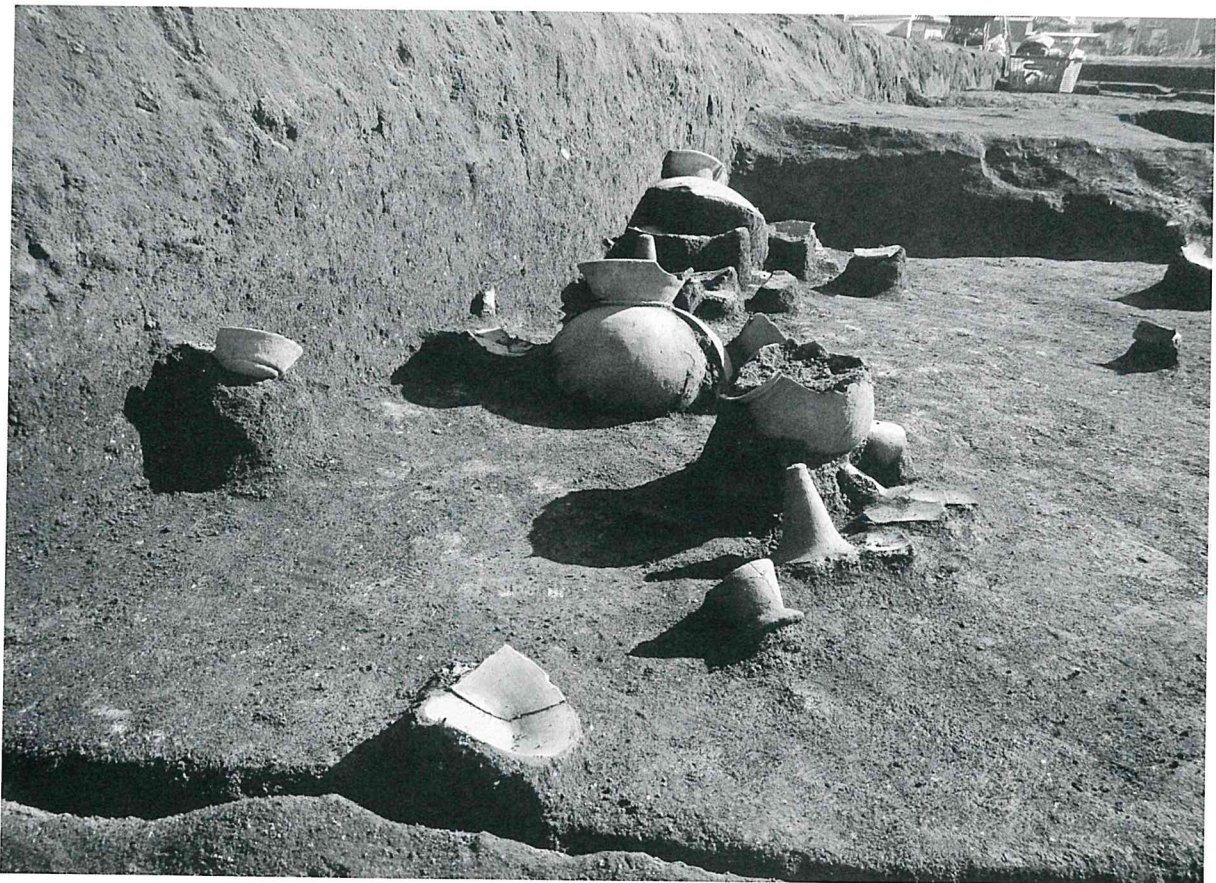
SI-05 遺物出土状況 (北から)



SI-05 遺物出土状況 (北西から)



SI-05 遺物出土状況近景 (北から)



SI-05 遺物出土状況 (北から)



SI-05 全景 (北から)



ST-01 全景 (西から)



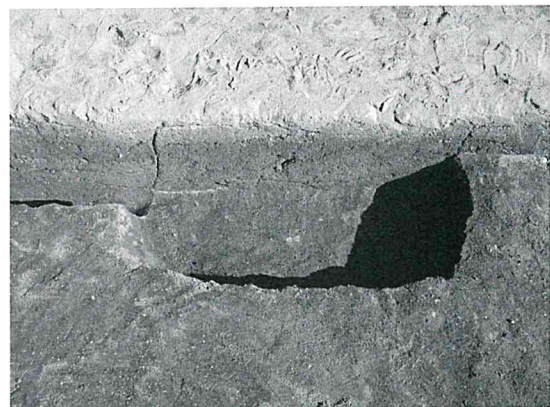
ST-02 全景 (東から)



ST-03 全景 (北東)



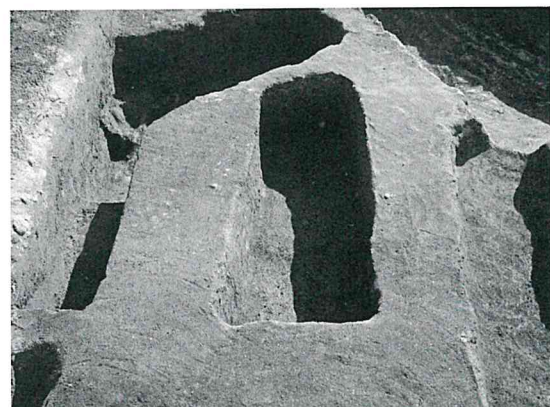
SK-02・P-01 全景 (西から)



SK-03 全景 (西から)



SK-04・05 全景 (東から)



SK-06 全景 (北から)



SK-07 全景 (北東から)



SK-08・09 全景 (北から)



SK-10 全景 (南から)



SE-01 全景 (北から)



SD-01 全景 (北東から)



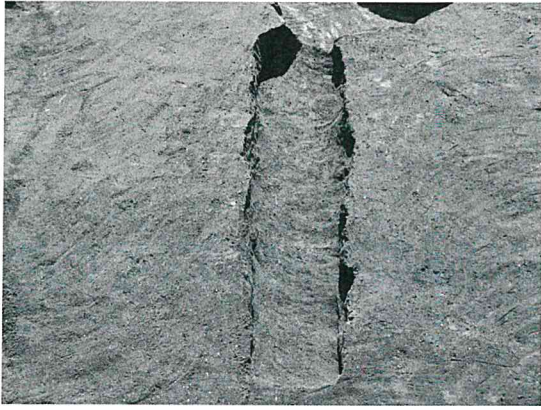
SD-01 工具痕確認状況 (北東から)



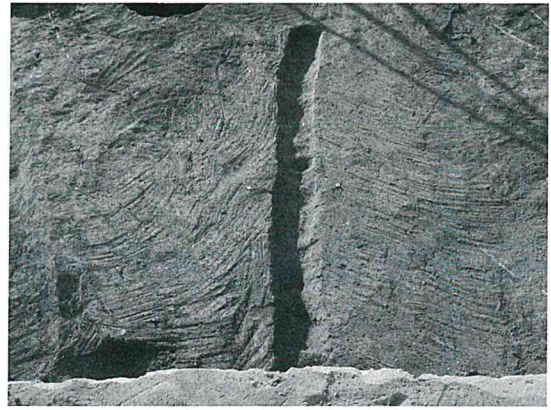
SD-03 全景 (北東から)



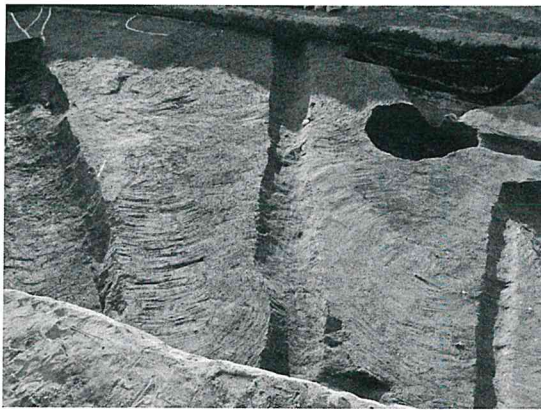
SD-03 工具痕確認状況 (北東から)



SD-02 全景 (北から)



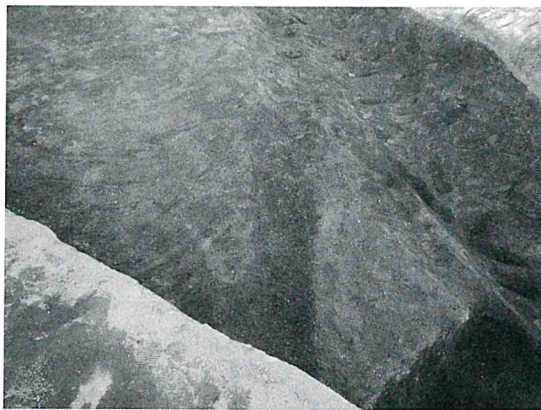
SD-04 全景 (東から)



SD-05a 全景 (北東から)



SD-05b 全景 (北東から)



SD-07 全景 (南西から)



SD-08 全景 (北東から)



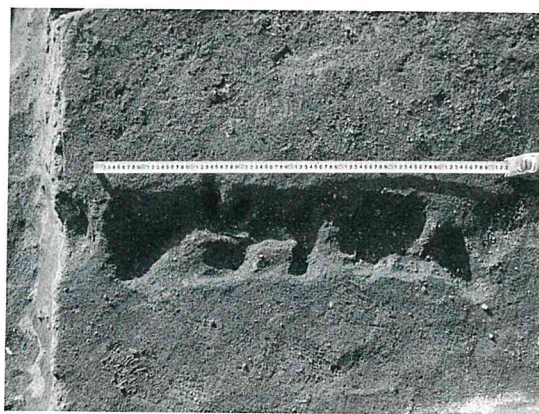
SX-01 全景 (西から)



SX-02 全景 (北から)



C 混畠検出状況 (北から)



C 混畠検出状況 (東から)



遺構確認状況 (北から)



調査風景 (南から)

SI - 01



SI - 02



SI - 03



SI - 04



SI - 05



出土遺物①



8



6



11



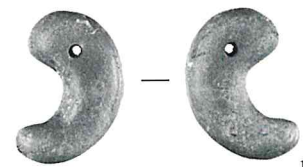
12



9



10



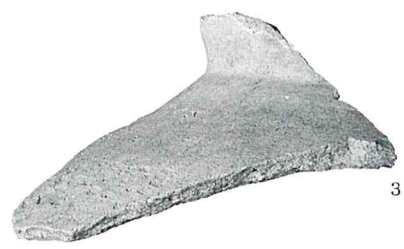
14



1



2



3

高崎市文化財調査報告書第 378 集

中泉十王堂遺跡

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

平成 28 年 6 月 28 日印刷

平成 28 年 6 月 30 日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／有限会社毛野考古学研究所

印刷／朝日印刷工業株式会社

抄 録

フリガナ	ナカイズミジュウオウドウイセキ
書名	中泉十王堂遺跡
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第378集
編著者名	日沖剛史
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 Tel. 027-265-1804
発行機関	有限会社毛野考古学研究所
発行年月日	平成28年6月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
なかいづみじゅうおうどういせき 中泉十王堂遺跡	ぐんまけんたかさきし 群馬県高崎市 なかいづみまちあざじゅう 中泉町字十 おうどう ばん 王堂98番1	102020	663	36° 22' 35"	138° 59' 57"	20160107 ～ 20160204	132 m ²	宅地造成 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中泉十王堂遺跡	集落跡	古墳時代前期 古墳時代後期 A s - B 降下以降	堅穴住居跡 畠 溝 堅穴状遺構 土坑 井戸 溝 不明遺構 ピット	土師器 埴 高坏 台付甕 壺 甌 須恵器 高坏 甕 石製品 勾玉 縄文土器 深鉢 石器 スクレイ パー	A s - C 混土で埋没 する古墳時代前期の 集落を確認。 H r - F A ないし H r - F P 泥流と想定 される土により埋没 する溝を確認。

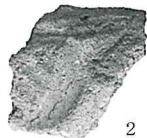


13

遺構外



1



2



3



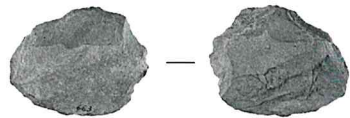
4



5



6



7

出土遺物③